

ODU NEWS 大阪歯科大学広報

ODU NEWS No.158
2010年6月30日

目 次

・平成 22 年度 大学・大学院入学式	3
・学長訓辞 学長 川添 勇彬	3
・理事長式辞 理事長 川添 勇彬	4
・平成 22 年度 専門学校入学式	7
・川添勇彬理事長再任	7
・病院西館 3 階に学生自習室設置	7
・学位（博士）授与報告	8
・平成 22 年春の叙勲受章者	8
・平成 21 年度 事業報告	8
・平成 21 年度 監事監査報告	19
・平成 21 年度 決算報告	20

・台北医学大学と学術交流協定締結	24
・平成 22 年度 解剖体慰靈祭	24
・寄贈	24
・三田先生「テンツプライ賞」受賞	25
・菊池先生「カバのイチロー」検診	25
・コロンビア大学留学体験記 生化学講座 吉川 美弘	26
・平成 22 年度 学内研究助成金	27
・川添学長「大いに語る」毎日新聞掲載	28
・人 事	29
・あとがき	35



平成 22 年度入学式（平成 22 年 4 月 6 日）

。。

平成22年度 大学・大学院入学式

。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。

4月6日(火)午前10時から楠葉学舎大講堂において、平成22年度大阪歯科大学ならびに大学院の入学式が開催された。川添堯彬学長から大学128名、大学院28名の入学許可の伝達があり、入学者を代表して林浩基さんが入学生宣誓を読み上げた。

川添学長は、新入生への訓辞のなかで「今日、この日に6年後には歯科医師になるという決意」を持ってもらいたいと述べ、新1年生を激励した。そのあと、特待生の表彰が行われ、最後にグリークラブにより学歌が齊唱され、新入生を歓迎した。



。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。

学長訓辞

学長 川添 堯彬

。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。

関東から西日本にかけて、今までに桜花満開のときを迎えた。この佳き日に、平成22年度の大学・大学院入学式が挙行されるに際しまして、学長として訓辞を述べたいと存じます。

大学入学生、大学院入学生にとって共に、ここが社会へ向けての「決意」と「誓い」のときであり、新たなスタート地点であります。そしてまた、入学生のご父兄、ご家族に取りましても今日の日が、期待と願いをこめた出発の時と胸に刻んでおられることと拝察い



いたします。

まず、大学入学者128名の諸君に申したい。諸君らは全員、いまここではっきりと誓ってください。「僕は一、私は一、決して迷わず、必ず歯科医師になるのだ」と肝に銘じて欲しいのです。諸君らはこれから的人生行路において漠然とでもファイナルゴール、最終目標を立てていると思います。しかし、まだ目標の立てていない人もいるかもしれません、なんら遅れている訳ではありません。いまはただ、6年後に必ず歯科医師になる、という誓いだけで結構です。そして与えられた今日という一日を大切にしてください。

今年の入学生128名の中に、私がその受験動機に深く感動を覚えた新入生の方がお二人、この会場の中におられます。その一人Tさんは医学部を卒業して今年、臨床研修を終えた女性医師ですが、歯科医師の仕事の重要性を痛感し、これまでの8年間とさらにこれから7年間の勉学を決意された学生さんです。もう一人のIさんも女性の方ですが、医学部を自主退学し、法学部を卒業して法学士になられ、さらに歯科医師の役割に夢を見出し7年後のこのたび、本学に優秀な成績で入学された学生さんです。私は、このような学生さんに歯科医学を教える立場にあることに無上の喜びを感じるとともに、このような学生さんたちと一緒に学友として歯科医学を再度、学びたい思いにかられます。まもなく創立100周年を迎える本学にとりまして、こうした熱意ある学生さんを迎えることに、大いなる誇りを感じます。

さて、大学院に入学されました28名の皆さん、本日は誠におめでとうございます。皆さん方は、義務化されました1年間の臨床研修を修了され、その上で難関な試験にも見事に合格された精銳揃いである、と言つても過言ではないと確信致しております。

また、ご父兄、保護者の皆様におかれましても、ご子弟の晴れ姿を目の前にされ、その感慨もひとしおのこととお察し申し上げます。反面、これから4年間、経済的にも大きな試練が続くことになり、その胸中は複雑な思いが去来していることとお察し致します。

大学院生の皆さん方は、すでに歯学士の免許を取得されておられるわけですが、なお、その上の博士（歯学）の取得を目指されるわけです。しかし、その道のりは平坦ではなく、厳しいことも覚悟しなくてはなりません。それだけに、その志がまっとうできた時の喜

びは筆舌には尽くせないものとなるでしょう。そして、二度や三度の失敗にも挫けることなく、努力を重ねていけば必ずや、皆さん方が期待していた2倍にも3倍にも相当する満足感と達成感を味わえる研究成果が得られるものと信じ、4年間頑張りますことを希望いたします。そしてまた、諸君に一人でも多く、海外留学を志してほしいと願います。帰国後には、大学は全力を上げて有為の青年歯科医師・博士を支援する制度を設けています。大いに羽ばたいていただきたいと念願します。

最後に、大学入学生、大学院入学生両方の諸君へのはなむけの言葉として、医学教育者の父と称えられ世界の多数の医学生に大きな影響を与え1919年になくなられたウイリアム・オスラー先生がよく引用された文を贈ります。

夜明けの勧告に耳を傾けよう。

今日という日に目を向けよう。

これこそ生命、生命の中のいのちなのだ。

その短い行程の中には、あなたの存在の、真理と現実とのすべてが含まれる。

カーリダーサ

これをもって、学長から皆さんへの訓辞といたします。

理事長式辞

理事長 川添 勇彬



まさに桜開花の便りが全国各地から送られてくるこの佳き日に、ご来賓の皆様、関係各位の方々をはじめ、多くのご父兄、ご家族の皆様にご臨席を賜り、128名の学部学生ならびに28名の大学院生を迎えて平成22年度の入学式が挙行できましたことは、誠に慶賀にたえません。あらためまして、ご臨席の皆様にお祝いと御礼を申し上げます。

それではまず、本日をもって、本学の学生として在学される学部学生の皆さんに理事長としての式辞を申

し述べます。

本学は1911年(明治44年)に創立され、来年の2011年には100周年を迎える伝統ある大学であります。貴方がたも今日から我々と共に、諸先輩の築かれた大学愛、校風、そして同窓としての絆を汚すことなく受け継いでいくわけです。本学の「建学の精神」は以下のように謳っています。

歯科医療における専門的知識、技能の重要性を自覚させ、旺盛なる研究意欲を醸成し、自ら選んだ道に強い使命感をもつとともに、社会に対する奉仕的人生観を体得させ、さらに健康にして活動力のある情操豊かな人間形成をおこなう。

この精神をよく理解し、将来は国内にとどまらず、国際的にも活躍するサイエンティスト、歯科医療人になって頂きたいと念願します。

先ほどの学長の訓辞にもありましたが、このたび本学へ入学された皆さんは、よくぞ歯科医師の道を選ばれたとその慧眼に拍手を贈りたいと思います。世間や一部マスコミでは歯科医師過剰だとか、豊かなくらしは望めないなどの意見もあるようですが、それらは皮相的で間違ったと見え方であります。これから日本の超高齢社会、小児児童からの全世代を通じての高いQOL希求、全身疾患と歯科疾患との関係の解明などにおいて、歯科医師の役割は高まるばかりです。

30年前の高度経済成長時代では、勤勉でなく努力しない歯科医にも一様に光が当たったかも知れませんが、そのような一時期はバブルの幻にすぎません。現今の時代、これから時代こそ常態の姿なのです。努力する人へのみ光が当たり、医療技術はますます高度化、専門化していく時代です。そのような社会では、皆さん方は専門医として、まさに引っ張りダコになっていくでしょう。ただし、皆さんのがこの道へ進まれるにあたり、社会から落伍しないために、ひとつ注意しなければならないことがあります。

それは、歯科医師である前に「人間性」を養うことであります。そして患者さんはじめ国民、社会からの「信頼」を獲得することです。これを怠ると、次第に社会からはじき出されてしまうことになります。職業を持つ身にとって最も心配なのは、「信頼性の失墜」なのです。どうかこのことを忘れないで、これから6年間の学生生活を楽しんで頂きたいと強調し、理事長からはなむけといたします。

ODU NEWS No.158

さて、大学院に入学されました28名の皆さん、本日は誠におめでとうございます。大学院に入学されました方々は、歯学士の免許を取得され、さらに必修化された1年間の卒後臨床研修を修了されたにも拘わらず、より崇高な歯科医学の真髄を求めて、さらなる研究の道を選ばれたわけであります。そのチャレンジ精神には満腔からの敬意を表します。

私も昔、44年前ですが大学を卒業して進路を考えるとき随分迷いましたが、大学院へ進んでよかったですとその後に強く思いました。先輩からも言われました。一大学院へ進むのは最短距離でイージーに学位をとるた

めではない、その4年間の過程でどれだけ苦しんだか、どれだけ努力したのかにある。したがって同じ博士の学位をとっても各人の苦しみ、努力の仕方が違うように、学位の価値も人それぞれに違ってくるのだ一と。

この言葉に後に目からうろこが落ちた感じがして今に至っています。まず皆さんの身近なところから実行してみることが大切です。

どうか熱意ある28人の新大学院生の皆さん、これから一念発起のチャレンジ精神と不撓不屈の努力によって果敢に進んでいただきたいと念願して、理事長の式辞といたします。





ODU NEWS No.158



平成22年度 専門学校入学式



4月8日(木), 大阪歯科大学歯科衛生士専門学校ならびに歯科技工士専門学校の入学式が開催された。歯科衛生士専門学校に入学した専門第36期生54名, 歯科技工士専門学校に入学した第47期生24名ならびに歯科技工士専攻科の第31期生2名に対し, 末瀬学長から入学許可が宣された。



末瀬学長は, 新入生80名に「歯科医師, 衛生士, 技工士のチーム医療の中で自らの専門性を自覚し, 協調性を養い, 目的を持って勉学に励んでもらいたい。一歩踏み出す勇気と関心, 感動, 感謝の3つのこころを大切にしてもらいたい」と挨拶した。在校生を代表して, 歯科技工士学科2年の林 幸那さんが歓迎の辞を述べ, 新入生を代表して西尾奈保さん, 辻 昇平さんが新入生宣誓をした。



川添堯彬理事長再任



4月2日(金), 天満橋学舎において理事の改選が行われ, 川添堯彬理事長が再任されました。新しく選任された法人役員は下記のとおりです。

役職名	氏名	担当
理事長	川添 堯彬	
常務理事	下村 錢三郎	総務・財務
〃	田中 昭男	教学・財務
〃	諏訪 文彦	教学・人事
理事	覚道 健治	教学・人事
〃	三谷 順	総務・人事
〃	岡 邦恭	調査
〃	橋本 猛伸	調査
〃	藤野 明	総務・財務
〃	伊達 洋彦	財務・人事
監事	前田 真治	
〃	古川 壽男	



病院西館 3階に学生自習室設置



5月10日, 附属病院の西館3階に学生自習室を設置しました。かねてより, 院内の学生のための学習環境の整備が必要とされており, このたび診療室を改装して141席を有する学生自習室としました。学生が午前7時から午後9時まで自由に利用しています。





学位（博士）授与報告



肥田 智明 乙第1547号 (平成22年6月23日)

Tissue reaction to synthetic oligopeptide derived from enamel matrix derivative in rats (エナメル基質蛋白誘導体由来の合成ペプチドに対するラット皮下組織の反応)

久野 裕史 乙第1548号 (平成22年6月23日)

Intraductal injection of botulinum toxin induces functional changes in rat submandibular gland cells(ボツリヌストキシンの導管注入によるラット顎下腺細胞の機能的変化)

木村 紀彦 乙第1549号 (平成22年6月23日)

Effects of application of hyaluronan on titanium screw mini-implants in the cortical bone of dog femurs(ミニインプラント埋入初期の骨形成に及ぼすヒアルロン酸の影響)



平成22年 春の叙勲受章者



平成22年春の褒章・叙勲において、大阪歯科大学関係者として以下の先生方が受章されました。

叙 勲

専門 30回	北村 弘	滋賀県	瑞宝双光章
専門 32回	美馬良一郎	徳島県	瑞宝双光章
大学 5回	水谷 光孝	京都府	旭日单光章
大学 9回	山本 尚	和歌山県	旭日双光章
大学 10回	小野 哲男	山口県	旭日双光章
大学 12回	花田 博明	兵庫県	旭日双光章
大学 14回	音山 泰宏	長崎県	旭日双光章



平成21年度 事業報告



— はじめに —

平成21年度は、前年に打ち立てた教育改革の基本理念である「5つの力（りょく）の目標」に基づき事業計

画を立てたが、これは現在の歯科大学あるいは歯科界の置かれた厳しい状況に鑑み、伝統ある本学の「建学の精神」に立ち戻り、改めて現代における歯科医学教育のあり方ならびに歯科医師の役割を問い直し、社会に必要とされる歯科医師の養成を目指したものであった。

平成21年度の事業計画で指摘した18歳人口の減少と入学定員割れ、歯科医師過剰というマスコミ情報、経済不況にともなう社会の停滞化などの要因がまともに歯科大学を直撃し、私立歯科大学の受験者数は前年より約2800人も少ない4973人に減少した。その結果、17の私立歯科大学のうち11大学で定員割れを起こすという前代未聞の事態を招來した。受験者数の減少と定員割れは、大学の財政や管理運営において直接、大きな打撃を与えるだけでなく、歯科医師として必要とされる資質を持った一定の教育レベルにある学生を確保するという教育的観点からも、今後の学生教育において大きな課題を残すことになる。

本学は、そうした事態に備え、平成20年の早い時期に20%にものぼる大幅な学費削減を決定し、その効果もあり平成21年度の一般入学試験において受験者を減らすことなく、逆に27名受験生が増加し、2.6倍の競争率を確保することができた。従来どおり一定レベルの学生が確保できていると理解され、あとは「5つの力（りょく）の目標」に基づく教育を実行していくことが大切であると考えている。

※5つの力の目標

- 一、募集ブランド力の回復
- 一、学力の向上
- 一、教育力の向上
- 一、人間性涵養力への注力
- 一、教育人材育成力への注力

平成21年度は、「5つの力の目標」に基づき、以下の諸事業を行った。

- I. 教学-a（大学存立危機からの脱出目標）
- I. 教学-b（大学存立危機からの脱出目標）
- II. 教員・大学院・研究（教員人材育成の目標）
- III. 附属病院（財政等改善の目標）
- IV. 教員組織改正に伴う対応
- V. 情報化、IT化への対応

VII. 両専門学校の将来像

VIII. その他の重点計画

I. 教学-a (大学存立危機からの脱出目標)

1. 入試ブランド力の回復
2. 国試に合格できる入試学力
3. 本試合格できるCBT学力
4. 国試95%以上合格できる学士力

入試ブランド力の回復を図ることで受験倍率3倍を目指したが、結果は一般入試で2.6倍の競争率であった。先に述べたように、私立歯科大学で3校に2校が定員割れする厳しい状況にあって、本学においては、不斷の学部入試制度の改革（推薦入試における指定校推薦の導入）を行い、大いに健闘したといえる。入試倍率が高い状態を維持できていると優秀な学生を確保し続けることが可能となり、6年間の教育課程および学年間においても偏差なく安定した教育レベルのもとで、理想とする教育が実行できる。その結果が、最終的な国家試験の合格率に結びつくと考えられる。上記の入試制度改革とともに入試ブランド力を高めるため、新たに2つの進学ネットに登録し（リクルートと講談社）、本学の認知度の拡大を図った。

また、入学時点ですでに国家試験に合格できる学力を備えた学生を確保するには、特待生制度や奨学金制度を充実・拡大させることも重要であると考えられる。そうした学生の存在がその学年全体に与える効果についても、一度検証する必要がある。

入学生確保の施策のひとつであるオープンキャンパスに関して、平成21年度は、楠葉学舎において7月28日（火）、8月25日（火）、11月1日（日）に行われ、3日間の合計で223名の参加者があり盛況であった。

「CBT」は、5年生の最初に行われる全国統一試験であるが、これに一度で合格できる力を1年生から4年生の間に養成することを目標に掲げた。

本学の全ての教員は、この4年間において学生が基礎学力と専門知識を取得できるよう精力的に取り組んでいる。同時に、この時期に人間性涵養力を養育することも大事で、学生が具体的な将来計画を持ち、理想とする歯科医師像を描きながら勉学に励むことで教育の相乗効果が期待できる。

最終の目標は、歯科医師国家試験に新卒で95%以上が合格できることである。合格率95%以上を達成する

と私立では上位3校に入り、入試ブランド力が上がり次の年の受験生が増える。優れた学生が入学することにより教育レベルも安定し、国家試験への好循環が生まれる。

本学の第103回国家試験合格率は既卒を含めた全体で65.8%であったが、新卒だけで見ると127名が受験して103名が合格し81.1%であり、これは国公私立大学の平均81.6%にほぼ匹敵し、私立大学の平均77.6%を3.5ポイント上回っている。さらに、出願者数に対する合格者数を調べると本学は77.4%で、東京歯科大学の81.3%，日本大学歯学部の81.2%に次ぎ第3位で、私立大学の平均62.6%を大幅に上回っている。また、前回に比べて新卒の合格者は17名増え、合格率も10ポイント近く上昇した。

I. 教学-b (大学存立危機からの脱出目標)

1. 教育力、CBT・OSCE学力、学士力の向上目標
2. カリキュラムの学年制化で教育力アップ
3. 第1・2学年教育力アップで留年減少化
4. 第5・6学年～病院と同一学舎で教育し、学士力アップで国試に臨む

入学時点での学生の教育力、5年生のCBT学力、それと卒業時の学士力、それぞれの定点における教育力・学力の向上を目指してきた。まず、カリキュラムの学年制化を図ることで、学生が学年ごとに体系的にカリキュラムを履修していくようにした。

次に、初年度教育を確実に行い、本学の教育システムに適応した教育力を身につけさせ、留年を減らすことを目指した。

第1学年においては、「新入生合宿」を行い、本学に対する愛校精神を醸成している。また、ゼミナール形式の授業「学長と語ろう」、態度教育の一環である「社会福祉施設体験学習」も行った。

第5学年と第6学年を附属病院のある天満橋学舎で教育する機会を増やすことにより、教員あるいは先輩との接触時間も増え、学士力の向上を目指した。

学生の学習機会の拡大充実という観点から、図書館の開館時間の延長、天満橋図書館分室の閲覧席増設などを行った。なお、歯学系図書館（私立大学）における学生一人当たりの貸出冊数は、大学ランキング2010年版（朝日新聞出版）でAランク（私立歯科大学で第1位）となっている。（貸出冊数／学生 15.2）

在学生の態度規範向上については、従来からの学年指導教授、助言教員によりきめ細かな生活指導がなされているが、朝の登学時に楠葉学舎正門で教員が自ら学生と挨拶を行うことで、学生の自発的な態度規範の向上に努めた。

初年次学生（第1・2学年）を対象にした薬物乱用防止講演会を、4月（第1学年から第5学年対象）に引き続き、11月16日（月）に楠葉学舎で開催した。（出席者数：第1学年119名、第2学年121名）

II. 教員・大学院・研究（教員人材育成の目標）

1. 教育・研究を支える人材の育成が急務
2. 教員採用・昇任基準を厳格に遵守
3. 教員人材育成の具体策
 - ①教員職階ごとの任用（昇任・再任）基準の明確化～キャリアパス
 - ②教員資格の一本化（一般教育系、基礎系、臨床系、病院）
 - ③講座・教室所属外でも教授を選出できるようにする
 - ④大学院修了者で海外留学経験者の教員採用制度を設ける
4. 海外留学の奨励と帰国後の採用支援
5. 科学研究費補助金等の申請を義務づける

まず、教員の人材育成が教育、研究の両面において急務であるとの認識のもとに、具体策を実行していく。また、教員の採用、昇任において規程に定められた基準を遵守することで、教員の質を担保するとともに教員力あるいは教育力の維持、アップに努めた。

具体策として、規定により職位ごとに任用基準を明確にし、教員として働いていくキャリアパスを整備した。また、教員の職制を一般教育系、基礎系、臨床系あるいは病院、それぞれの所属には関係なく一本化し、誰もが平等に教育・研究を進めていく体制を整えた。さらに、教育研究に優れた人材は、規定の条件を満たせば講座または教室所属外であっても、教授として選出できるようにした。

教員採用においても、本学の大学院を修了した海外留学経験者に対する特別採用制度をつくり、大学として海外留学経験者を積極的に採用していくとともに大学および大学院教育の活性化と教員人材育成を図った。

一方で、教員の質を高めるため、任用規程において

講師以上には科学研究費補助金申請を資格条件としている。また、人材登用を図るため、専任教員制度を新設し、関係規程を整備した。

いわゆる教員力アップについては、平成22年1月21日(木)に日本歯科大学東京短期大学学長の小口春久先生をお招きし、第5回FD講演会を天満橋学舎で開催した（参加者102名）。FD研修会（宿泊研修）については、平成21年7月24日（金）、25日（土）38名の参加、平成22年1月22日（金）、23日（土）53名の参加で、コスモスクエア国際交流センターにおいて開催した。

本学教員による「競争的資金」については、平成21年度も獲得に向けた努力が続けられている。主な項目は、次のとおりである。

○平成21年度文部科学省科学研究費補助金

基盤研究（C）18件、若手研究（B）11件、若手研究（スタートアップ）3件 合計32件で総額5359万9千円であった。（補助交付額：4123万円、間接経費1236万9千円）

○平成21年度私立大学等研究設備整備費等補助金 (私立大学等研究設備等整備費)

1523万2千円（Applied Biosystemsジェネティックアナライザ3130xl）を獲得した。

○独立行政法人科学技術振興機構重点地域研究開発推進プログラム「シーズ発掘試験」 平成21年度は、2名採択となった。

○ハイテク・リサーチ・センター整備事業（事業名「歯周病の戦略的研究」）

第1回研究成果報告会を平成21年7月11日（土）楠葉学舎にて開催した。（平成19年度からの継続事業）

国際学術交流では、中国5大学との共同研究の受け入れ（南方医科大学）、本学からの教員派遣としては、上海交通大学口腔医学院への派遣があり、四川大学華西口腔医学院から表敬訪問（周学東院長他2名）などがあった。

国内の交流事業としては、平成21年8月19日に関西医科大学と学術交流に関する包括協定を締結した。この事業としては、①学部学生および大学院生の教育・研究の交流、②医学・歯学情報の交換、③共同研究プロジェクトの推進、④教職員の相互交流、⑤その他となっている。

III. 附属病院（財政等改善の目標）

1. 健全経営への新病院システムの活用
2. 健全経営からの歯科医師臨床研修
3. 健全経営からの事務機構の改善
4. 各部署の収支改善策を実行

[本学財務状況と附属病院]

平成21年度は、少子化の影響を受け多くの私立大学が定員割れなどにより収支状況を悪化させ、私立歯科大学ではさらに、歯科医師過剰などの構造的な要因も加わり、地方の大学では大幅な定員割れを引き起こし、大学存続の危機に直面している。

本学は、学費値下げの効果もあり定員割れを回避できたが、これによる収入面での減収は6年間で約10億円になる。1年目の平成21年度は3億8千4百万円、それ以降の5年間は毎年1億2千8百万円の減収となる。

しかし、収支改善策として、人件費の削減の他に、附属病院を含めた全ての部門で教育研究経費と管理経費支出において、約2億円の削減を断行した結果、毎年10億円を超えていた収支(帰属収支)の支出超過が、この給与改革と支出削減により徐々に減少し、平成19年度で1億円の収入超過、平成20年度は名目で13億円(平成20年度に会計上の処理で負債である退職給与引当金が下がったため)、実質では6億円の収入超過となり、収支改善に成功している。

平成21年度は学納金で4億円近く減収したにもかかわらず、支出面での改善が継続しているため、帰属収支において1億3千万円の収入超過となった。ただし今後、5年間は学納金収入が約1億3千万円ずつ減っていくので、また収支が交差する状況となる。

財政基盤を安定させ確立させるには、収支が均衡化した状態を数年間、継続させていくことが重要であり、その努力が財政の安定化につながる。収支を悪化させる要因を分析、把握し、コントロールすることが大切である。今回の学費値下げは学生確保という明確な方針に基づき実施され、それによる収入面での減少額、期間も具体的にはっきりしている。したがって、収支を均衡化させていくには、この間に収入を増やし支出を抑制する努力が求められている。それには、現在のところ病院と専門学校の収支を改善していく以外に方法はない。特に、病院部門においては、「新病院情報システム」の積極活用による収入の増収が図られる必要がある。

[改革の方向性・課題]

このような本学の財務状況を踏まえ、病院収入増への改革の方向性としては、基本的には本業である医療収入において増収を図るほかない。新病院になってから数年間、病院収入は20億円を超えていたが、ここ5年間ぐらいは18億円台にとどまっている。これを何とか回復させ、20億円台の収入を目指す努力が必要とされる。病院の持つ潜在能力から考えて可能であり、支出において無駄を省き、予算管理を適正に行う努力が必要である。

また、日々の診療の担い手である教員の勤務状態についても、平成21年度中に見直しを行い、関係規程の次年度実施に向けて整備を完了した。(平成23年度に関係規程を施行)

平成21年度から、新たな病院医員制度が導入された。各自にモチベーションを高める方策として、診療報酬に応じた報奨金に関する規程を整備し、病院医員に報奨金を支払うこととし、収入増加への成果が上がっている。この制度は、健全経営との観点から導入されたものであることを踏まえ、今後見直しを含め推移を見守る必要がある。

理事会に設けられた附属病院財務改善検討委員会において、収支改善を含む管理・運営体制の再構築に向けた審議が行われた。その中では、平成20年1月から導入された「新病院情報システム」について、改善すべき点があるとの指摘のほか、機器導入による患者の流れに対する現場の業務委託内容の調整、病院事務機構の改革など課題が示されている。これらの指摘を踏まえ、平成22年度も不斷に検討していく。

このような改革のさなかにあって、附属病院では、従来からの地域医療に貢献する附属病院としての役割を一層發揮することを念頭に、次の取組みを行っている。新たな専門外来（ドライマウス・ドライアイ外来、息さわやか外来、白い歯外来、頸関節外来、口腔腫瘍外来、顎変形症外来、唇顎口蓋裂外来）での診療活動の展開や、先進医療（歯周外科）の開始、さらに義務化された歯科医師臨床研修教育、本学附属病院と歯科医院との連携などである。

・臨床研修教育

平成18年度から義務化となった歯科医師臨床研修教育において、制度発足当初から本学附属病院は、地道かつ真摯な取組みを行っている。今年度には、本学

附属病院が参加して近畿地区臨床研修病院説明会が平成22年2月6日（土）に開催された。（歯科医院は13施設であった。）

平成21年度の歯科医師臨床研修修了者は、110名（プログラムS 28名、プログラムC 82名）であった。平成22年3月19日（金）に臨床研修歯科医症例報告会が開催され、口腔外科Ⅰの研修医に院長賞、歯周病と口腔外科Ⅱの研修医に優秀賞が授与された。

・病診連携

歯科医院と本学附属病院の連携を深めることを目的に、昨年に引き続き「病診連携講習会」が、平成22年2月13日（土）に開催された。また、本学附属病院に設置されていた「地域歯科連絡室」の再構築の検討を進めることとなった。

・医療安全講習会、院内感染対策講習会

これらの医療安全及び感染防止に関する取組みは、昨年度に継続して積極的に実施されている。「医療安全のための研修」（8回）、「院内感染対策のための研修」（13回）、「医薬品安全のための研修」（2回）、「医療機器安全使用のための研修」（4回）が多数の参加者のものと行われた。（講習会の回数については、医療安全、感染防止の併催を含む）

IV. 教員組織改正に伴う対応

1. 教員評価 → 「教員評価委員会規程」

(*教員評価調査票、*講義に対する学生評価表)

2. 教員任用・資格審査基準を明確化（前述）

3. 人材育成・意欲向上からの4施策（前述）

教員評価については、平成21年度は試行期間として実施した。教員評価は、「教育」「研究」「臨床」「学内活動」「社会活動」「目標・態度・意欲」の6項目について、始めの3項目のうち2項目を本人が選択できるようにし、所属により不公平が出ないように配慮している。また、項目により重要度を区別してより客観的なデータに基づき評価できるようにしている。今年度の試行データをもとに、修正を加える必要があるかどうかを委員会で検討し、平成22年度から本格的に教員評価を行っていく。評価結果は、マイナス指向のネガティブに使うのではなく、プラス面をより積極的に評価して報奨や顕彰の方向につなげ、教員の意欲向上や人材育成に活用していきたい。

V. 情報化、IT化への対応

1. 平成20年度事業計画を充実、推進する。

情報化の推進としては、学生に対するモバイルサービスの継続や電子ジャーナルの充実など、ICT（Information and Communication Technology）活用教育研究支援（私立大学等経常費補助金特別補助）の獲得による学内情報基盤の充実を図った。

学外向けホームページについては、各部署から積極的な働きかけがあり、保護者向けのページが新しく掲載されるなど、コンテンツの充実が図られた。また、更新情報も徐々に増加しているが、さらにニュース面での部署ごとの積極的な掲載が望まれる。

今後、附属病院のホームページについては、大学と比較しても一般の人のアクセス数が多いことがわかつており、それに応えるコンテンツの充実が望まれる。

VI. 両専門学校の将来像

1. 「専門学校財政改善等検討委員会」へ付託

・学則変更などの改善策を実施

歯科技工士ならびに歯科衛生士の両専門学校については、財政改善等検討委員会において、両専門学校の新展開を含め、継続して審議している。

歯科技工士専門学校については、入学者数が減少傾向にあるが、歴史ある専門学校として教育レベルを落とすことなく、引き続き優れた歯科技工士の育成に努めた。歯科衛生士専門学校については、3年制に統一されたため他校と同じ条件での競争が可能となり、教員、カリキュラム、設備等の本学の優れた教育環境を生かして、学生定員の確保に努力した。

両専門学校では、①担当教員による高等学校訪問、②学校説明会の開催、③リクルート、ポスターなどの広報などを積極的に展開し、志願者の増加に向けた地道な努力の結果、入学者増に繋がっている（附属資料参照）。また、平成21年度の両専門学校の国家試験合格率は100%であった。

VII. その他の重点計画

1. 創立100周年記念事業の企画案

・平成23(2011)年開催

・「創立100周年記念事業企画委員会」の設置

・理事会、教授会、同窓会からの協力態勢

・式典を平成23年11月11日および11月26日に開催

ODU NEWS No.158

2. 第22回日本歯科医学会総会の主幹校に決定

- ・平成24(2012)年11月開催予定(金～日の3日間)
- ・25年ぶり本学が主幹校に決定

創立100周年の記念事業については、5月に企画委員会において100周年を象徴する標語として「誇りと誓い－繁栄たる大樹へ－大阪歯科大学創立100周年」に決定した。また同時に、記念事業の柱として7項目を決め、そのうち教員人材育成制度はすでに、留学生特別採用制度として実現しているので、残る6項目について11月に新しく設立した記念事業常任委員会ならびに各記念事業準備グループにおいて進めてきている。

すでに平成19年度からは、創立100周年の学外へのアピールと学内におけるモチベーション向上のため、大学祭、本学公開講座、同窓会・大阪歯科学会合同講演会などの行事に「プレ創立100周年」との冠をつけて開催しているが、今年度以降も同様に継続する。

創立100周年記念式典は2011年11月11日（金）、同窓会の会員大会は11月26日（土）に開催することを決定している。

記念事業の柱となる6項目は次の通りである。

- ① 記念式典・祝宴・慰靈祭 2011年11月11日（金）
- ② 本学発祥の地への記念碑設置
- ③ 記念事業募金
- ④ 天満橋学舎に講義室・自習室を建設
- ⑤ 出版物の刊行（100年史の刊行）
- ⑥ 公開講座・記念講演会

また、平成24年に開催される第22回日本歯科医学会総会は本学が主幹校として、2012年11月9日（金）～11日（日）の3日間の日程で、総会を大阪国際会議場（リーガロイヤルホテル）、デンタルショーをインテックス大阪で開催することを決定した。

3. その他の事業—施設・設備等関係

楠葉学舎中央監視盤更新工事、天満橋学舎西館電気室改修工事が行われた。

* * * * *

[附属資料]

1. 平成21年度学生数

() は女子 (平成21年5月1日現在)

大学		大学院
第1学年	133(54)	第1学年 28(12)
第2学年	139(48)	第2学年 28(12)
第3学年	130(50)	第3学年 17(4)
第4学年	117(51)	第4学年 7(2)
第5学年	117(46)	
第6学年	149(50)	
	785(299)	80(30)

歯科技工士専門学校	専攻科
1年 19(6)	専攻科1年 6(1)
2年 11(3)	専攻科2年 5(1)
30(9)	11(2)

歯科衛生士専門学校	
1年 27(27)	
2年 19(19)	
3年 29(29)	
75(75)	

2. 第103回歯科医師国家試験の結果

平成22年3月29日合格発表

	受験者数	合格者数	合格率(%)
本学	199	131	65.8
新卒	127	103	81.1
既卒	72	72	38.9
全国	3,465	2,408	69.5
新卒	2,355	1,921	81.6
既卒	1,110	487	43.9

3. 平成22年度入学試験状況

	志願者	合格者	入学者
大学	321	141	128
推薦入試	60	43	
一般入試（前期）	197	84	
一般入試（後期）	64	14	
大学院	35	29	28
一次	17	15	
二次	15	12	
三次	3	2	
歯科技工士専門学校	32	30	24
専攻科	2	2	2
歯科衛生士専門学校	72	56	54

4. 平成 20 年度会計実査

平成 21 年 4 月 3 日 (金)

5. 大学・大学院入学式

平成 21 年 4 月 7 日 (火) 午前 10 時 (於: 楠葉学舎)

6. 平成 21 年度大学新入生研修会

平成 21 年 4 月 8 日 (水) 午前 9 時 (於: 牧野学舎)

平成 21 年 4 月 9 日 (木) 午前 9 時 (於: 楠葉学舎)

7. 薬物乱用防止講演会

第 1 回 平成 21 年 4 月 10 日 (金) 午後 4 時 10 分～
受講学年: 1 年～5 年 (於: 楠葉学舎)

第 2 回 平成 21 年 11 月 16 日 (月) 午後 4 時 10 分～
受講学年: 1 年・2 年 (於: 楠葉学舎)

8. 教員任用制度の改正

9. 大学特待生の採用

10 名が採用され、授業料の半額を免除

10. 大学学内奨学生選考

4 名の学生に対して総額 3,600,000 円の奨学金を貸与

11. 平成 21 年度教職員子弟の大学授業料減免

11 名減免 計 11,000,000 円

12. 平成 21 年度 F D

・セミナー

平成 21 年 5 月 11 日 (火) 午後 5 時 10 分

76 名出席 (於: 天満橋学舎)

平成 21 年 5 月 20 日 (水) 午後 5 時 10 分

78 名出席 (於: 天満橋学舎)

平成 21 年 5 月 26 日 (火) 午後 4 時 30 分

31 名出席 (於: 楠葉学舎)

平成 22 年 1 月 21 日 (木) 午後 5 時 15 分

102 名出席 (於: 天満橋学舎)

・研修会 (於: コスモスクエア国際交流センター)

平成 21 年 7 月 24 日 (金), 25 日 (土) 38 名出席

平成 22 年 1 月 22 日 (金), 23 日 (土) 53 名出席

13. 平成 20 年度監事監査

平成 21 年 5 月 14 日, 15 日 (於: 楠葉学舎)

14. 解剖体慰靈祭

平成 21 年 5 月 15 日 (金) 午後 2 時 (於: 四天王寺)

15. 平成 21 年度共用試験歯学系CBT並びにOSCE

・ C B T

平成 21 年 6 月 2 日 (火) 午前 9 時 30 分 (於: 楠葉学舎)

・ O S C E

平成 21 年 6 月 14 日 (日) 午前 9 時 (於: 天満橋学舎)

16. 大学父兄会・共済会総会

平成 21 年 6 月 27 日 (土) 午後 1 時

父兄 284 名が出席 (於: 楠葉学舎)

17. 全日本歯科学生総合体育大会壮行会

平成 21 年 7 月 11 日 (土) (於: 楠葉学舎)

18. ハイテク・リサーチ・センター整備事業

第 1 回研究成果報告会 (於: 楠葉学舎)

平成 21 年 7 月 11 日 (土) 午前 10 時～午後 5 時
演題 27 件, 75 名出席

19. 第 41 回全日本歯科学生総合体育大会

(当番校: 明海大学)

平成 21 年 8 月 1 日 (土) ~11 日 (火)

本学は第 4 位

20. スチューデントアシスタントの採用

10 名 (2 年 1 名, 3 年 2 名, 4 年 6 名, 6 年 1 名) を採用

21. オープンキャンパス (於: 楠葉学舎)

第 1 回 平成 21 年 7 月 28 日 (火)

午後 1 時～午後 4 時 89 名参加

第 2 回 平成 21 年 8 月 25 日 (火)

午後 1 時～午後 4 時 74 名参加

第 3 回 平成 21 年 11 月 1 日 (日)

午前 10 時～午後 12 時 40 分 70 名参加

22. 平成 21 年度備品調査

平成 21 年 8 月 3 日, 4 日

ODU NEWS No.158

23. 第6学年父兄懇談会

平成21年8月22日（土）午後1時（於：楠葉学舎）

24. 平成21年度地方父兄会（兵庫県）

平成21年8月29日（土）午後1時

58名出席（於：神戸ポートピアホテル）

25. 第17回公開講座

・メインテーマ

プレ100周年記念事業

一大阪歯科大学は、2011年創立100周年を迎えます—
健やかな人生は口と歯の健康から！

・日 程

天満橋講座 平成21年9月5日、12日（土）

午後1時～3時30分

受講者延べ336名（於：天満橋学舎）

特別講座 平成21年11月21日（土）

午後1時～3時30分

受講者131名（於：ドーンセンター（大阪府立男女共同参画・青少年センター））

枚方講座 平成22年2月27日、3月6日（土）

午後1時～3時30分

受講者延べ492名（於：楠葉学舎）

26. 実験動物慰靈祭

平成21年9月25日（金）午後1時30分

（於：牧野学舎）

27. 平成21年度大学祭（テーマ：HERO）

・体育祭

平成21年10月24日（土）（於：牧野学舎）

・文化祭

平成21年10月31日（土）、11月12日（日）

（於：楠葉学舎）

28. 平成21年度自衛消防訓練

楠葉学舎 平成21年11月12日

牧野学舎 平成21年12月25日

天満橋学舎 平成21年12月 3日

29. 平成21年度全学教職員忘年慰労会

平成21年12月28日（於：天満橋学舎）

30. 平成22年新年互礼会

平成22年1月5日（於：楠葉学舎）

31. 平成21年度解剖体遺骨返還式

平成22年3月4日（木）午後2時 26体
(於：楠葉学舎)

32. 卒業式並びに大学院学位認証式

平成22年3月12日（金）午前10時（於：楠葉学舎）

33. 平成21年度歯科医師臨床研修修了証書授与式

平成22年3月23日（火）午後2時30分
(於：天満橋学舎)

34. 独立行政法人科学技術振興機構重点地域研究開発

推進プログラム「シーズ発掘試験」

2名（歯科保存学1名、欠損歯列補綴咬合学1名）
が採択された。

35. 関西医科大学と学術交流に関する包括協定を締結

平成21年8月19日

事 業

- ①学部学生および大学院生の教育・研究の交流
- ②医学・歯学情報の交換
- ③共同研究プロジェクトの推進
- ④教職員の相互交流
- ⑤その他、前文に掲げる目的を達成するためには必要な事業

36. 平成22年度臨床研修歯科医の募集定員

単独型研修方式40名、複合型研修方式120名

37. 創立100周年記念事業

記念式典は、2011（平成23）年11月11日（金）
大阪国際会議場、リーガロイヤルホテルにて開催
することを決定。

テーマは、「誇りと誓い—繁栄たる大樹へー」
大阪歯科大学創立100周年。

38. 学位授与

学位記番号甲第641号～647号7名に学位記授与
学位記番号乙第1530号～1546号17名に学位記授与

39. 平成 21 年度法人理事会・法人評議員会・教授会・
大学院研究科会議

1) 法人理事会 15 回開催

(平成 21 年 4 月 23 日, 5 月 28 日(2回), 6 月 25
日, 7 月 23 日, 8 月 27 日, 9 月 24 日, 10 月 2
日, 10 月 29 日, 11 月 26 日, 12 月 28 日, 平成
22 年 1 月 28 日, 2 月 25 日, 3 月 25 日(2回))

2) 法人評議員会 2 回開催

(平成 21 年 5 月 28 日, 平成 22 年 3 月 25 日)

3) 主任教授会 17 回開催

(平成 21 年 4 月 8 日, 5 月 13 日, 6 月 10 日, 7
月 8 日, 8 月 12 日, 9 月 9 日, 10 月 14 日, 11
月 11 日, 11 月 25 日, 12 月 9 日, 平成 22 年 1
月 13 日, 1 月 27 日, 2 月 4 日, 2 月 10 日, 3
月 10 日, 3 月 17 日, 3 月 31 日)

4) 大学院研究科会議 16 回開催

(平成 21 年 4 月 22 日, 5 月 27 日, 6 月 24 日, 7
月 22 日, 8 月 26 日, 9 月 18 日, 10 月 14 日, 10
月 28 日, 11 月 25 日, 12 月 22 日, 平成 22 年 1
月 27 日, 2 月 10 日, 2 月 24 日, 3 月 10 日, 3
月 17 日, 3 月 24 日)

40. 本学関係 叙勲・褒章の受章者、受賞等

1) 叙 勲

専門 30 回 新田 孟 大阪府 旭日双光章
共 18 名

2) 褒 章

大学 17 回 和田 明人 徳島県 藍綬褒章
共 2 名

3) 日本歯科医学会会長賞受賞

川添理事長・学長

4) 文部科学省医学教育等関係業務功労者表彰
附属病院 歯科技工士長 加地 公夫

41. 川添理事長・学長

・医療系大学間共用試験実施評価機構理事 (CBT 担
当) に就任 (平成 21 年 4 月 1 日付)

42. 教職員数 (平成 22 年 3 月 1 日現在 : 403 名)

1) 大 学 386 名

・教員数 203 名

学長 1 名, 教授 26 名, 准教授 26 名, 講師 43

名, 助教 84 名, 病院教授 3 名, 病院准教授 7

名, 病院講師 9 名, 病院助教 4 名

・職員数 183 名

事務・技術 79 名, 医療 101 名, 労務 3 名

2) 歯科技工士専門学校 10 名

教員 7 名, 事務 3 名

3) 歯科衛生士専門学校 7 名

教員 5 名, 事務 2 名

43. 人 事

1. 就 任

法人評議員 森田 章介(平成 21 年 4 月 23 日付)

2. 名誉教授称号授与

川添 堯彬, 新池 孜

3. 退 任

1) 任期満了に伴う退任 (平成 22 年 3 月 31 日付)

・法人役員

理事長 川添 堯彬

理 事 村上 勝, 新田 孟, 田中 昭
男, 三谷 卓, 岡 邦恭, 田治
米保夫, 橋本 猛伸, 諏訪 文彦,
覚道 健治, 伊達 洋彦

監 事 下村錢三郎, 白神 進

・法人評議員

豊田 紘一 共 38 名

2) 死亡退任

法人評議員 白石 宣(平成 21 年 9 月 30 日付)

4. 退 職

1) 定年退職

総合診療第一科 病院准教授 辻 準之助 共 10 名

2) 依願退職

総合診療・診断科 助教 青木 秀哲 共 12 名

3) 休職期間満了に伴う退職

附属病院 看護師 下田 智恵

5. 昇 任

化学教室 主任教授 藤原 真一 共 10 名

6. 任 用

1) 主任教授

教授 豊田 紘一 共 24 名 (平成 21 年 4 月 1 日付)

2) 大学院教授

有歯補綴咬合学 大学主任教授 田中 昌博

3) 助 教

ODU NEWS No.158

物理学教室博士（人間・環境学）一宮 正義 共13名
4) 専門学校教員
　歯科衛生士専門学校 助手 大西 愛
5) 職 員
　附属病院 歯科衛生士 長谷川 花織 共6名
7. リサーチ・アシスタント採用
　解剖学 RA 江原 大輔 共4名
8. 所属異動
　大学院課 池田 良則 共5名
9. 兼 務
　総務課人権担当 種坂 隆志 共4名
10. 兼務解除
　総務課広報担当 種坂 隆志 共3名
11. 出 向
　口腔外科学第一講座 助教 福地 和秀
12. 委 嘴
1) 客員教授
　大阪歯科大学歯科技工士専門学校 名誉校長
　玉置 敏夫 共9名
2) Visiting Professor
　韓国慶熙大学校歯科大学 教授 朴 榮國 共9名
3) 平成21年度講師（非常勤）
　解剖学講座 清水 孝治 共436名
　（平成21年4月1日付）
4) 嘴 託
　医療法人稻門会 岩倉病院 精神科医
　森 悅子 共10名
5) 病院医員
　保存修復科 鍋形 園恵 共61名
6) 臨床研修管理運営委員会外部委員
　大阪府歯科医師会 常務理事（歯科医師）
　山口 邦男 共3名
7) 治験委員会外部委員
　千葉大学法経学部 教授 植木 哲
8) 平成21年度ポストドクトラルフェロー
　口腔外科学第二 博士（歯学） 室井悠里 共2名
9) 各種委員会委員
①大学関係
　・共用試験歯学OSCE実行委員会委員
　　松本 尚之 共2名
　・知的財産委員会委員長 覚道 健治
　　委員 田中 昭男 共3名

・健康管理委員会委員 福島 久典 共2名
・学生部委員会委員 藤原 真一 共2名
・カリキュラム委員会委員 武田 昭二 共2名
②法人関係
・業者登録選考委員会委員 田中 修
・大阪歯科大学附属病院財務改善検討委員会
　委員 田中 昭男
・資産運用検討委員会委員長 伊達 洋彦
　委員 田中 昭男 共8名
・大阪歯科大学創立100周年記念事業常任委員会
　委員長 川添 堯彬，副委員長 村上 勝
　共4名，常任委員 田治米保夫 共24名
・大阪歯科大学創立100周年記念事業準備グループ
　《記念式典・祝宴・慰靈祭》
　責任者 村上 勝，委員 覚道 健治 共8
　名，事務局 中村 廣志 共6名
《本学発祥の地・記念碑設置》
　責任者 新田 孟，委員 覚道 健治 共7
　名，事務局 田中佐和子 共4名
《記念事業募金》
　責任者 三谷 卓，委員 伊達 洋彦 共7
　名，事務局 中村 廣志 共4名
《講義室・自習室》
　責任者 岡 邦恭，委員 伊達 洋彦 共7
　名，事務局 中村 廣志 共5名
《大学100年史・大学院50年史》
　責任者 田中 昭男，委員 橋本 猛伸 共
　7名，事務局 田中佐和子 共5名
《公開講座・講演会》
　責任者 諏訪 文彦，委員 田治米保夫 共
　7名，事務局 東野 隆 共5名
10) 学年指導教授並びに助言教員
　学年指導教授
　　1年（133名）武田 昭二
　　2年（141名）西川 泰央
　　3年（133名）池尾 隆
　　4年（117名）岡崎 定司
　　5年（117名）松本 尚之
　　6年（149名）林 宏行
　副学年指導教授
　　6年 清水谷公成，山本 一世
　助言教員

1年 中塚美智子 共6名
2年 戸田 伊紀 共6名
3年 大島 浩 共6名
4年 川崎 弘二 共6名
5年 田中 昌博 共6名
6年 吉田 匠宏 共6名

(平成21年4月1日現在)

11) 平成21年度学友会会长 上田 雅俊

44. 学外活動

- 1) 教授海外視察
歯科保存学講座 主任教授 山本 一世
- 2) 教員海外研修
生化学講座 助教 吉川 美弘 共3件
- 3) 教員海外出張
口腔治療学講座 講師 畠 銀一郎 共51件
- 4) 教員学外派遣
高齢者歯科学講座 講師 柿本 和俊(継続) 共33件
- 5) 国際交流
中国五大学との共同研究
・受 入
　　南方医科大学 1名 (期間: 平成21年10月5日～19日)
・派 遣
　　上海交通大学口腔医学院 (期間: 平成21年11月1日～5日)
　　口腔衛生学講座 神原主任教授, 三宅准教授,
　　土居講師, 上根研究技術員主任
・その他
　　四川大学華西口腔医学院より周 学東院長他
　　2名本学表敬訪問(平成21年7月31日～8月1日)

45. 補助金・助成金

- 1) 平成21年度大阪歯科大学学術研究奨励助成金交付
　　4件 助成金交付額 2,700,000円
- 2) 平成21年度大阪歯科大学共同研究助成金交付
　　1件 助成金交付額 5,200,000円
- 3) 平成21年度科学研究費補助金交付
　　(文部科学省平成21年6月9日付)
 - ・基盤研究(C) 18件
 - ・若手研究(B) 11件
 - ・若手研究(スタートアップ) 3件 計32件

補助金交付額 41,230,000円

(間接経費 12,369,000円 合計 53,599,000円)

- 4) 平成21年度私立大学等経常費補助金交付額
　　435,247,000円
- 5) 平成21年度私立大学等研究設備整備費等補助金
(私立大学等研究設備等整備費) 交付額
　　15,232,000円
- 6) 平成21年度臨床研修費等補助金交付額
　　185,779,000円
- 7) 国際交流助成
　　口腔治療学講座 講師 畠 銀一郎 共26名
　　に対し 6,401,282円の助成

- 8) 寄 贈
　　川添 堯彬 理事長・学長・名誉教授 共8件
　　合計として 4,000,000円

46. 諸規程

- 1) 大阪歯科大学学則(一部改正)
- 2) 大阪歯科大学学費等納付金規程(施行)
- 3) 特待生に関する内規(一部改正)
- 4) 授業料減免に関する特別措置(一部改正)
- 5) 学校法人大阪歯科大学職制規程(一部改正)
- 6) 学校法人大阪歯科大学教員の定員等に関する規程(施行)
- 7) 大阪歯科大学教授会規程(一部改正)
- 8) 大阪歯科大学教員選考規程(施行)
- 9) 大阪歯科大学学長候補者選考規程(一部改正)
- 10) 大阪歯科大学教授候補者選考委員会規程(一部改正)
- 11) 大阪歯科大学附属病院病院教員規程(一部改正)
- 12) 学校法人大阪歯科大学給与規程(一部改正)
- 13) 大阪歯科大学大学院歯学研究科専攻科教員任用規程(一部改正)
- 14) 大阪歯科大学附属病院病院医員就業規則(一部改正)
- 15) 大阪歯科大学附属病院病院医員報奨金に関する規程(施行)
- 16) 学校法人大阪歯科大学資産運用細則(施行)
- 17) 大阪歯科大学医の倫理委員会規程(一部改正)
- 18) 大阪歯科大学スチューデントアシスタント(Student Assistant)規程(施行)
- 19) 大阪歯科大学歯科技工士専門学校学則(一部改正)
- 20) 学校法人大阪歯科大学教職員出向規程(施行)
- 21) 学校法人大阪歯科大学就業規則(一部改正)

5. 監査の概要および監事の意見

監事は、私立学校法第37条第3項及び学校法人大阪歯科大学寄附行為第13条第3項の定めに基づき、平成21年度における学校法人大阪歯科大学の財産及び業務執行状況の監査を行った。

(1) 一般会計に関する監査

1) 監査の方法および監査結果

監事は理事会及び評議員会に出席するほか、理事からその業務の執行状況を聴取し、重要な決裁書類等を閲覧し、主要な関係部署において業務及び財産の状況を調査した。また、監査は会計監査人である仰星監査法人と連携し、平成21年度の計算書類について報告及び説明を受け、財産目録、事業報告書、貸借対照表及び収支計算書に検討を加えた。

学校法人大阪歯科大学の業務又は財産に関し、不正の行為または法令もしくは寄附行為に違反する重大な事実は認められない。財産目録、貸借対照表及び収支計算書等は会計帳簿の記載と合致し、法人の収支及び財産の状況を適正に表示しているものと認める。事業報告書は主要な事業が記載されており、事業が適正に執行されているものと認める。

2) 各課における予算執行状況

決算報告書に基づき、平成21年度予算執行状況について各部署より報告を受けた。一部の部署において、予算超過ならびに予算執行率の低下があるものの、全体的に適正な事務処理により予算管理がなされており、経費節減への努力が認められた。

なお、今回の監査では過去7年間の予算執行率データに基づき、各課の予算管理について評価するとともに、予算と決算の乖離の大きい部署についてはその理由を問い合わせ、経費節減の観点から前年度実績に基づく予算編成と適正な予算管理を要請した。

(2) 業務内容に関する監査

- 1) 大学の財政状況に鑑み、各課の業務において無駄を省き、支出を膨らませない努力を要請した。また、各課における業務内容・業務量と人員配置、勤務状況、施設・設備の保全状況などの報告を受け、監査した。
- 2) 平成21年度に導入された4つの事務システム(経理システム・人事システム・論文検索システム・科研費システム)の稼動状況について質問し、概ね、トラブルもなく順調に稼動しているとの報告を受けた。

ただし、人事担当における教員評価、授業評価は新しく発生した業務であり、データ集計のためのシステムへの入力作業が業務量の増大となっている。

3) 報酬委託費については、来年度から現場部署の所轄により予算管理することが決まっている。監査では、新たに担当部署となるところには、実情を把握した現場の責任において、報酬委託費の節減努力を要請した。

4) 歯科大学の定員割れが現実のものとなり、本学でもその対策が必要とされるが、教務部において一般入試の前・後期化、推薦指定校制度を実施してきている。また、オープンキャンパスの案内をHPに適宜、掲載して効果を挙げている。

5) 附属病院は、収支改善への具体的な努力が要請されている。本学の収支状況を考えると、病院の医療収入は重要な事業収入として期待されている。監査では、新病院情報システムの稼動状況、収支状況、改善状況などの報告を受けた。病院システムは導入後2年以上経過しているが、日常でのシステムの不具合に備えてメディア社から常駐のエンジニアを1名委託している状態であり、順調な稼動状況であるとは言えない。期待された経費削減効果も見えてこないのが現状である。また、改善策においても、明確なビジョンと実効性の検証が必要とされる。

6) 両専門学校については、定員が充足できない状態が続いているが、積極的な広報宣伝活動や地道な学校訪問の努力もあり、歯科技工士専門学校の入学者は昨年より6名増え24名であった。一方、歯科衛生士専門学校は今年から3年制の一斉実施となり、教育環境面で優れた本学へは定員を上回る54名の入学者があった。両専門学校については、入学定員を満たすことが収支改善につながる。



平成21年度 決算報告



平成21年度決算は、平成22年5月27日に開催された法人理事会で承認され、同日に開催された第141回評議員会に報告されました。

平成21年度決算における「資金収支計算書」、「消費収支計算書」、「貸借対照表」の概要は次のとおりです。

ODU NEWS No.158

1. 資金収支計算書

資金収支計算書は、当該年度の諸活動に対応する全ての収入および支出内容ならびに支払資金の収支の顛末を明らかにするものです。

資金収入は、学生生徒等納付金収入、補助金収入、事業収入などの法人に帰属する収入のほか、前受金収入なども含め、88億5449万円となりました。一方、資

金支出は、教職員の人事費、教育研究活動および法人の運営に必要な諸経費、施設、設備関係支出などの支出を含め、82億6495万円となりました。

この結果、収支差引5億8954万円の資金余剰となり、これを前年度繰越支払資金28億856万円に加算した結果、次年度繰越支払資金は33億9812円に増加しました。

平成21年度資金収支計算書
(平成21年4月1日から平成22年3月31日まで)

(単位：円)

収入の部

科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	5,104,430,000	4,970,380,000	134,050,000
手数料収入	32,841,000	37,290,300	△ 4,449,300
寄付金収入	27,000,000	29,250,000	△ 2,250,000
補助金収入	604,594,000	638,799,356	△ 34,205,356
資産運用収入	408,601,000	410,604,984	△ 2,003,984
資産売却収入	0	0	0
事業収入	2,026,500,000	1,926,046,960	100,453,040
雑収入	259,870,000	240,079,793	19,790,207
前受金収入	962,550,000	959,640,000	2,910,000
その他の収入	1,050,669,000	1,017,959,248	32,709,752
資金収入調整勘定	△ 1,404,116,000	△ 1,375,559,636	△ 28,556,364
小計	9,072,939,000	8,854,491,005	218,447,995
前年度繰越支払資金	2,808,588,599	2,808,588,599	
収入の部合計	11,881,527,599	11,663,079,604	218,447,995

支出の部

科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	4,753,410,000	4,582,918,830	170,491,170
教育研究経費支出	2,014,340,000	1,884,375,430	129,964,570
管理経費支出	533,139,126	557,785,793	△ 24,646,667
施設関係支出	143,000,000	165,595,650	△ 22,595,650
設備関係支出	134,684,000	130,185,290	4,498,710
資産運用支出	970,809,000	855,032,795	115,776,205
その他の支出	389,901,000	400,309,403	△ 10,408,403
[予備費]	(2,634,126) 97,365,874		97,365,874
資金支出調整勘定	△ 279,339,000	△ 311,245,552	31,906,552
小計	8,757,310,000	8,264,957,639	492,352,361
次年度繰越支払資金	3,124,217,599	3,398,121,965	△ 273,904,366
支出の部合計	11,881,527,599	11,663,079,604	218,447,995

(注)予備費使用内訳

管理経費支出

報酬委託費支出

2,634,126

2. 消費収支計算書

消費収支計算書は、資産もしくは用益の消費額（消費支出）とその補填に充当できる収入（消費収入）とを対比し、両者の均衡の有無を明らかにするものです。

帰属収入は、学生生徒等納付金、補助金、事業収入などの法人に帰属する負債とならない収入で、82億7913万円となりました。また、基本金組入額は1億6795万円となりましたので、消費支出に充当することができる消費収入は81億1117万円となりました。一方、消

費支出は、教職員の人事費、教育研究活動および法人の運営に必要な諸経費で、81億4784万円となりました。

この結果、平成21年度決算における消費収支の均衡状況は、3666万円の消費支出超過となりました。

これにより、翌年度繰越消費収支差額は、前年度繰越消費支出超過額が199億9788万円であり、基本金取崩しが1億6210万円発生したため、198億7243万円の消費支出超過額計上となりました。

平成21年度消費収支計算書
(平成21年4月1日から平成22年3月31日まで)

(単位：円)

消費収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金	5,104,430,000	4,970,380,000	134,050,000
手 数 料	32,841,000	37,290,300	△ 4,449,300
寄 付 金	42,000,000	50,376,238	△ 8,376,238
補 助 金	604,594,000	638,799,356	△ 34,205,356
資 産 運 用 収 入	408,601,000	410,604,984	△ 2,003,984
資 産 売 却 差 額	0	0	0
事 業 収 入	2,026,500,000	1,926,046,960	100,453,040
雑 収 入	259,870,000	245,633,970	14,236,030
帰属収入合計	8,478,836,000	8,279,131,808	199,704,192
基本金組入額合計	△ 248,096,000	△ 167,954,004	△ 80,141,996
消費収入の部合計	8,230,740,000	8,111,177,804	119,562,196

消費支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人 件 費	4,624,755,000	4,459,532,254	165,222,746
教 育 研 究 経 費	3,036,559,000	2,885,312,761	151,246,239
管 理 経 費	741,037,126	787,826,712	△ 46,789,586
資 産 处 分 差 額	0	6,178,010	△ 6,178,010
徴収不能引当金繰入額	0	7,528,500	△ 7,528,500
徴 収 不 能 額	0	1,466,618	△ 1,466,618
[予 備 費]	(2,634,126) 97,365,874		97,365,874
消費支出の部合計	8,499,717,000	8,147,844,855	351,872,145

当年度消費支出超過額	268,977,000	36,667,051	
前年度繰越消費支出超過額	19,997,881,193	19,997,881,193	
基本金取崩額	0	162,109,197	
翌年度繰越消費支出超過額	20,266,858,193	19,872,439,047	

(注) 予備費使用内訳
管理経費 報酬委託費 2,634,126

ODU NEWS No.158

3. 貸借対照表

貸借対照表は、会計年度末時点における財政状況（保有する資産と負債の状況）を表示するものです。

資産の部の合計額は、591億4899億円となり前年度末に比べ、6025万円減少しました。これは、流動資産が現金・預金を中心に6億2596万円増加する一方、固定資産が減価償却等により6億8621万円減少したことによ

るものです。

負債の部は、退職給与引当金の減少等により前年度末比1億9153万円減少して、66億9964万円となりました。

翌年度繰越消費支出超過額は、消費収支計算書の項目で説明のとおり198億7243万円でしたので、基本金の部は前年度末比微増の723億2146万円となりました。

貸 借 対 照 表 (平成22年3月31日)			
(単位:円)			
資 産 の 部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	55,300,629,224	55,986,846,460	△ 686,217,236
有形固定資産	21,598,769,937	22,547,724,179	△ 948,954,242
その他の固定資産	33,701,859,287	33,439,122,281	262,737,006
流動資産	3,848,033,247	3,222,068,568	625,964,679
資産の部合計	59,148,662,471	59,208,915,028	△ 60,252,557
負 債 の 部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	4,990,836,935	5,115,065,761	△ 124,228,826
流動負債	1,708,803,641	1,776,114,325	△ 67,310,684
負債の部合計	6,699,640,576	6,891,180,086	△ 191,539,510
基 本 金 の 部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
第1号基本金	41,936,272,428	41,969,252,968	△ 32,980,540
第3号基本金	29,713,188,514	29,674,363,167	38,825,347
第4号基本金	672,000,000	672,000,000	0
基本金の部合計	72,321,460,942	72,315,616,135	5,844,807
消 費 収 支 差 額 の 部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
翌年度繰越消費支出超過額	19,872,439,047	19,997,881,193	△ 125,442,146
消費収支差額の部合計	△ 19,872,439,047	△ 19,997,881,193	125,442,146
科 目	本年度末	前年度末	増 減
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	59,148,662,471	59,208,915,028	△ 60,252,557

∞∞∞

台北医学大学口腔医学院と 学術交流協定締結

∞∞∞

5月31日、台北医学大学口腔医学院と本学との間で学術交流協定が締結されました。本学から、川添堯彬理事長・学長、清水谷公成国際交流部長らが台北市にある同校を訪れ、蘇 慶華副校長、林 哲堂口腔医学院院長らの出迎えを受けました。

学術交流協定書の調印式において、本学の川添学長と台北医学大学の蘇副校長との間で学術協定書が交換されました。本学が台湾の大学と学術交流協定を結ぶのは初めてのことです。

台北医学大学は、1960年に創立された私立の医療系総合大学で、医学部のほか口腔学部、薬学部、看護学部などがあります。口腔医学院は大学と一緒に設立されており、今年がちょうど創立50周年にあたります。



林院長・蘇副校長・川添学長・清水谷部長



一同そろって記念写真

∞∞

平成22年度 解剖体慰靈祭

∞∞

新緑の五月晴れの中、5月14日(金)午後2時より四天王寺五智光院において、平成21年度解剖体慰靈祭が500名を超える参列のもと、厳かに執り行われた。

開会前の喧騒が導師入堂を告げる半鐘の音により、瞬く間に式場全体が荘厳な静寂に包まれ、その静寂な中、導師入堂に合わせて開式の言葉が述べられた後、解剖学講座諫訪主任教授から祭文が奉読された。荘厳な読経の中、尊いご遺体を捧げられた御靈のご冥福を祈念して参列者一同、焼香を行った。続いて、大阪歯科大学を代表して川添理事長・学長から、歯科医学の教育研究発展のため篤志をもってご献体いただいた故人、ご遺族ならびにご協力を賜っている黄菊会会員の方々に深甚なる謝意が表され、献体者故前田敏子殿ほか9名のご遺族に対して文部科学大臣感謝状が授与された。最後に、学生を代表し第3学年の四方教子さんが解剖実習を無事終えたことへの感謝のことばを靈前に寄せ、参列した学生全員が立礼をして感謝の気持ちを表した。

慰靈祭終了後、ご遺族ならびに各参列者は元三大師堂の本学慰靈碑前へ移動して回向を行った。また、黄菊会第38回総会が開催され、議事どおり終了した。

∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞

寄 贈

∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞∞

下記の寄贈を受けましたので報告します。寄贈いただいた各位には心より感謝いたします。

・大阪歯科大学第47回卒業生

大阪歯科大学講師（非常勤） 山崎 行庸

平成22年2月11日寄贈

頭蓋骨標本4個

評価額 500,000円

・大阪歯科大学第58回卒業生

平成22年3月12日寄贈

卒業を記念して、給茶機2台

800,000円



三田先生「デンツプライ賞」受賞



6月12日に東京ビックサイトで開催された日本補綴歯科学会第119回学術大会において、本学の三田悟司先生が優秀ポスター賞（デンツプライ賞）を受賞しました。三田先生は、共同発表者の岡崎定司主任教授とともに「リン酸三カルシウムコーティングインプラントの固着特性に関する *in vivo*評価」のポスター発表を行い、発表作品107題の中から5作品に与えられる優秀賞のひとつに選ばれました。

○発表内容

リン酸三カルシウムが抜歯窩ならびにインプラント周囲組織の治癒にどのような影響を及ぼすかを検討することを目的に、正常ラットを用いて、下顎切歯抜歯窩へのインプラント即時埋入における骨形成について比較、検討を行った。その結果、正常ラットの抜歯窩に β TCPコーティングスクリューを埋入したラットでは3週ならびに9週後において、対照のチタンスクリューに比べ有意に高い値を示した。



三田先生(左)と佐々木日本補綴歯科学会理事長



菊池先生「カバのイチロー」検診



「虫歯予防デー」の6月4日（金）、本学附属病院の菊池優子講師が白浜のアドベンチャーワールドで地元の保育園児たちが見守る中、カバのイチロー（8歳）の歯の検診を行った。大阪歯科大学特製の大きな歯ブラシで大きく開いたカバの口の中を調べ「虫歯はありません」。菊池先生が歯ブラシでイチローの歯を磨くと、園児たちも恐る恐るこれに続いた。ちなみに、カバの歯は40本あるそうです。この様子は、NHKテレビなどで放送された。

カバの歯磨きの後、菊池先生に同行した臨床研修教育科の病院医員の中嶋有佳子先生、臨床研修教育科出身で勤務医の長谷川雅代先生も加わり、地元の保育園児に虫歯ができるのかを紙芝居でやさしく説明し、歯磨きの大切さを学んだ園児たちは先生方の指導の下、歯磨きの練習をしました。

歯の衛生週間（4日～10日）にちなんだイベントに大阪歯科大学は毎年、積極的に協力しています。





コロンビア大学留学体験記 生化学講座 吉川 美弘



私は、2008年9月から2010年3月まで約1年半、コロンビア大学に留学しました。行く前は期待もありましたが、それ以上に不安のほうがありました。もちろん、言葉の問題が最も大きかったです。しかし実際、ニューヨークで生活を始めると、研究室の人はもちろん、レストランの人やお店の店員さんなど皆さん親切で、こちらの英語を理解しようとしてくれ、あたたかく住みやすい町だなと思いました。



というのも、ニューヨークというのは本当にいろいろな国からの人が多く、大半の人が英語が母国語というわけではないので、人々、住んでいる人たちもそうしたことに慣れているといった感じでした。私の場合、1年半ニューヨークにいて、白人のアメリカ人と接することはほとんどなく、実際、私の研究室もアメリカ人は一人もいなく、大半がアジア人とヨーロッパ人でした。それくらいニューヨークにはいろいろな人種がいる町だということがわかります。

大阪歯科大学とコロンビア大学の歯学部は学術協定を結んでいるという関係もあり、歯学部長に挨拶をさせていただいたところ、「大阪歯科大学から誰か留学に来ないのか」といった催促があるくらい、大阪歯科大学に対してよい印象を持たれています。私はコロンビア大学医学部で研究を行っていたので、それ以上深く関わることはなかったのですが、是非、機会があれば大阪歯科大学から歯学部のほうに留学をしていただきたいと思います。

私は1年半研究生活を送ったのですが、研究において1年半というのは、ものすごく短い時間だということをあらためて実感しました。コロンビア大学というのは世界でも有数の大学であり、多くのノーベル賞受賞者が在籍していた大学でもあり、研究活動も世界のトップクラスで当初、やっていけるか不安でしたが、日本で経験したものが十分に役に立ち、すぐになじむことができました。最初、1年間の留学を予定していたのですが、研究が思うように進まず半年間の延長を希

望したところ、大学の御厚意により許可をいただき研究を続けたのですが、結局、結論を得るまでには至らず、残念な思いを残して帰国となりました。しかし、ここでの経験は、これからのお仕事に大きく役に立つものであると思っています。

NYというところは皆さんもご存知のとおり、ブロードウェイなどのミュージカル、オペラ、博物館など、文化的なものに触れるには充実した場所であり、スポーツにおいてもアメリカの4大スポーツであるベースボール、アメリカンフットボール、バスケットボール、アイスホッケーのチームがそれぞれ2チームずつあり、スポーツに触れ合うにも充実した都市であります。さらに、先ほども言いましたように、様々な国から人々がやってくるので、日本にいる以上にどこの国の料理も食べることができる都市であります。

実際にやって来た経験から言えば、研究だけでなく様々な文化に触ることで、大変勉強になりました。これからの研究者には、ニューヨークはもちろんのこと是非、一度は海外留学を経験していただきたいと思います。



ODU NEWS No.158



平成 22 年度 学内研究助成金



平成 22 年度大阪歯科大学学術研究奨励助成金(大学

院生) ならびに共同研究助成が採択されました。学術研究奨励助成金は 10 件で合計 3,500,000 円、また共同研究は継続 1 件で 3,000,000 円がそれぞれ助成されました。

平成 22 年度 大阪歯科大学学術研究奨励助成金（大学院生）採択一覧

課題番号	氏名	専攻	学年	研究課題	申請額（円）
10-01	保尾 謙三	歯科保存学	3	Er:YAG レーザー照射歯質に対するコンポジットレジンの接着性能に関する研究	350,000
10-02	安井菜津希	歯周病学	3	新規合成ペプチドによる歯周組織再生治療に向けての基盤構築	350,000
10-03	渋谷 友美	高齢者歯科学	4	口蓋床の形態が嚥下圧に及ぼす影響について —口腔内圧・咽頭圧—	350,000
10-04	大河 貴久	有歯補綴 咬合学	4	プロビジョナルレスレーションの咬合接触を忠実に再現するクラウン製作方法に関する研究	350,000
10-05	谷岡 欽相	有歯補綴 咬合学	4	add画像法を用いた左右側で咬みやすさの差が生じない咬合接觸に関する研究	350,000
10-06	古川麻希子	欠損歯列補綴 咬合学	3	実験的口蓋床による局所加圧刺激が唾液中バイオマーカに及ぼす影響について	350,000
10-07	赤峯 勇哲	口腔外科学 第二	4	滑膜細胞からなる三次元培養組織に対する繰り返し圧縮負荷刺激による細胞内シグナル伝達経路制御の解析	350,000
10-08	園田 弓	歯科矯正学	3	矯正装置装着による唾液中のストレスマークの変化	350,000
10-09	河合 咲希	小児歯科学	2	炎症性サイトカイン乳歯歯髓由来細胞における MMP 産生	350,000
10-10	大西 杏奈	歯科麻酔学	3	揮発性吸入麻酔薬とエタノールによる虚血心筋保護作用の増強効果とそのシグナル伝達の解明	350,000
計 10件					3,500,000

平成 22 年度 共同研究助成採択課題

課題番号	新規 継続	研究代表者	研究分担者 (* : 幹事)	研究協力者	研究課題	助成金額 (千円)
B08-01	継続	福島 久典	山中 武志*、山根 一芳 真下 千穂、南部 隆之 杉森千恵子、上田 雅俊 高津 兆雄、林 宏行 吉田 匠宏、森田 章介 山本 一世	C.B. Walker K-P. Leung	口腔バイオフィルム の解明	3,000

○川添学長「大いに語る」毎日新聞（4月28日朝刊）

—Campus Now— トップインタビュー

大阪歯科大学 川添堯彬学長



——歯学大学を取り巻く環境について

◆極めて厳しいと言えます。歯学部の受験者数が減少しています。歯科医師が過剰との声や職業としての歯科医師の人気低下も言われているようです。定員割れや学生数の減少は国の補助金カットにつながります。本学に限らず、歯科大学は存続にかかる大きな課題に直面しています。

——授業料の値下げは効果を上げた？

◆一昨年春、20%強の値下げを行いました。その結果、定員割れを心配した前年度より受験者数が増え、2.6倍の競争率になりました。京阪神だけでなく、他府県や遠方の地域からの受験生が増えました。遠方からの学生は下宿する必要があり、お金がかかりますから。値下げは、入りたいけれども高額だからと足踏みしていた受験生の背中を押すことができたようです。文部科学省は入試倍率が2倍以下なら定員割れと同じ、すなわち「全入」と同じだとしています。本学としては入試倍率を上げたい。3倍以上の倍率にすることが目標です。

——他に重点的に進めていくことは？

◆最終ゴールは国家試験に90%以上が合格できるように、学力を高めることです。現在、合格率90%以上を達成している大学は国内に3、4校です。本学もそのレベルに引き上げて行かなければなりません。どちらかと言うと、本学は進級には甘く、卒業しやすいところがありました。それを断ち切る環境づくりを進めて行きます。国家試験の合格率が高まれば、受験生増にも必ずつながります。

——歯科医という職業について

◆村上龍さんの著書「13歳のハローワーク」で歯科医師が取り上げられていますが、よく言い当てていると思います。「歯科医師は飽和状態になりつつあるが、信頼に足る歯科医師は多くはない。確かな技術と知識を持って、患者さんの気持ちになりながら治療を行えることが成功する重要な要素である」。昔と違って今は患者が医師を選ぶ時代。技術だけでなく、高い心の満足度が求められます。患者と心を通わせる歯科医師に育っていく必要があります。もう一つは「アート」の側面です。「13歳の」では「単に歯を治療するだけにとどまらず、より歯を美しく見せたいという需要も増加している」と指摘しています。その通りで、歯をより白く見せる「ホワイトニング」などが広まっています。アート感覚を養うために「美術」を授業に取り入れるなどの工夫をして行きます。

——学内の改革について

◆例えば「教員のキャリアパス」です。少ないポストを奪い合い、その結果負けた人は実力があっても大学を去らなければならないことは貴重な人材の損失になってしまいます。解消するために、職位ごとに資格基準を設けることにしました。学術論文数、経験年数など、数値を明確にして不公平感のない人事を実現しました。教員の評価は、教育、研究、臨床など6項目について行い、学生評価も取り入れました。努力して成果を挙げた人については報奨や顕彰をするようなしきみをつくり、皆がやる気を持って臨める教育現場を整えて行きます。

——大学の社会貢献について

◆「歯と口腔の健康」をテーマに93年から年2回、公開講座を開いています。専門的にならないようにし、質疑応答を含め双方向の市民講座を目指しています。毎回100人以上の参加があり好評です。大学祭では無料歯科検診、近隣病院の入院患者さんや老人介護施設への訪問口腔ケアもすっかり定着しています。

——創立100周年が近づきます。

◆11年11月11日に記念式典を行います。「いい年、いい月、いい日」というわけです。本学から1万5000人余が巣立ち、全国で活躍しています。大勢駆けつけてくれることでしょう。これに向けて「誇りと誓い—蓁蓁（しんしん）たる大樹へー」という標語を掲げました。「蓁蓁」とは緑の葉や枝が豊かに増えしていく様子。本学が進む方向を示す、ちょうどいい目標だと思います。

第 18 回大阪歯科大学公開講座**—プレ 100 周年記念事業—****<天満橋講座>**

「最新の歯科疾患診断からわかるあなたの健康」

・平成 22 年 9 月 4 日(土)午後 1 時から

①「ここまで進んだ診断技術」 講師 富永 和也

②「診断でわかる治療方針」 講師 井関 富雄

・平成 22 年 9 月 11 日(土)午後 1 時から

③「画像診断でとらえる歯科疾患」 講師 四井 資隆

④「内視鏡でみるのどの病気」 講師 久保 伸夫

<会 場>大阪歯科大学附属病院

<対 象>社会人・学生 150 名

<受講料>無料

<申 込>大阪歯科大学公開講座係

<締 切>平成 22 年 8 月 27 日(金)

主 催: 大阪歯科大学

人 事**新 任**

副学長 豊田 紘一

総務部長 小正 裕

教務部長 田中 昭男

学生部長 諏訪 文彦

図書館長 神原 正樹

附属病院病院長 覚道 健治

大学院研究科科長 大浦 清

中央歯学研究所所長 西川 泰央

教育情報センター所長 福島 久典

国際交流部長 清水谷公成

附属病院副病院長 上田 雅俊

附属病院副病院長 森田 章介

附属病院副病院長 林 宏行

以上 H. 22. 4. 1 付

教員採用

歯科医学教育開発室 専任教授 王 宝禮

化学教室 助教 津田 進

口腔解剖学講座 助教 乾 千珠子

歯周病学講座 助教 田幡 元

歯科矯正学講座

助教 護邦 英俊

以上 H. 22. 4. 1 付

昇 任

臨床研修教育科

専任教授 前田 照太

歯科理工学講座

准教授 今井 弘一

高齢者歯科学講座

准教授 高橋 一也

欠損歯列補綴咬合学講座

准教授 西崎 宏

細菌学講座

講師 南部 隆之

歯科保存学講座

講師 岩田 有弘

高齢者歯科学講座

講師 小野 圭昭

口腔外科学第二講座

講師 嶽 寛仁

小児歯科学講座

講師 竹安 正治

以上 H. 22. 4. 1 付

移行任用

総合診療・診断科

准教授 永目 誠吾

総合診療・診断科

准教授 米谷 裕之

総合診療・診断科

准教授 辻 一起子

臨床研修教育科

准教授 紺井 拡隆

総合診療・診断科

講師 辰巳 浩隆

総合診療・診断科

講師 米田 譲

総合診療・診断科

講師 大西 明雄

臨床研修教育科

講師 小川 文也

臨床研修教育科

講師 大井 治正

臨床研修教育科

講師 北野 忠則

臨床研修教育科

講師 菊池 優子

総合診療・診断科

助教 横口 恭子

以上 H. 22. 4. 1 付

出 向

口腔外科学第一講座

助教 福地 和秀

H. 22. 4. 1 付

大学院教員任用

大学院教授

諏訪 文彦 , 岩井 康智

西川 泰央 , 池尾 隆

田中 昭男 , 福島 久典

大浦 清 , 武田 昭二

神原 正樹 , 山本 一世

林 宏行 , 上田 雅俊

小正 裕 , 田中 昌博

岡崎 定司 , 森田 章介

覚道 健治 , 松本 尚之

清水谷公成 , 大東 道治

小谷順一郎 , 堂前 尚親

大学院准教授	竹村 明道 , 隅部 俊二 内橋 賢二 , 鎌田 愛子 西川 哲成 , 山中 武志 篠原 光子 , 三宅 達郎 吉川 一志 , 好川 正孝 柏木 宏介 , 前田 照太 井関 富雄 , 中嶋 正博 嘉藤 幹夫 , 佐久間泰司 宮前 雅見 , 横 則章 藤田 淳一	附属病院 附属病院 附属病院 附属病院 附属病院	看護師 西村美由紀 看護師 溝田 幸代 歯科衛生士 梶 愛子 歯科衛生士 橋本 明佳 以上 H. 22. 4. 1付
大学院講師	戸田 伊紀 , 玉田 善堂 中塚美智子 , 上田 甲寅 井上 博 , 平野俊一朗 合田 征司 , 和唐 雅博 富永 和也 , 山根 一芳 今井 弘一 , 川崎 弘二 土居 貴士 , 岩田 有弘 柿本 和俊 , 小野 圭昭 西崎 宏 , 兼平 治和 吉田 博昭 , 大西 祐一 大東 希好 , 原田 京子 竹安 正治 , 百田 義弘 杉岡 伸悟 , 長野 豊 澤井 宏文	法人事務局 法人経理部 図書課 経理課 経理課	事務職員 伊藤 淑子 H. 22. 4. 1付
大学院助教	上村 守 , 藤本 哲也 吉川 美弘 , 堂前 英資 南部 隆之 , 真下 千穂 橋本 典也 , 谷本 啓彰 初岡 昌憲 , 畠 銀一郎 吉田 匡宏 , 辻 則正 緒方智壽子 , 田口洋一郎 河野 智生 , 川本 章代 楠本 哲次 , 田中 順子 佐藤 正樹 , 西浦 亜紀 蓮舎 寛樹 , 秋山 広徳 加藤 裕彦 , 有城久美子 以上 H. 22. 4. 1付	法人事務局長 経理部長 課長 課長 主任	中村 廣志 H. 22. 4. 1付 中尾 昌彦 高橋 和代 稻留 誠 下田 亮介 以上 H. 22. 6. 1付
職員採用	法人事務部 大学事務部 病院庶務課卒後研修担当 附属病院	病院事務部 専門学校事務室 専門学校事務室 総務課人権担当 専門学校事務室 教務学生課 大学庶務課 専門学校事務室 専門学校事務室 専門学校事務室 専門学校事務室 事務職員 事務職員 事務職員 事務職員 事務職員 事務職員 事務職員 事務職員 事務職員 事務職員 事務職員 事務部長 事務部長 副事務長	事務長 前野 隆 事務長 東野 隆 室長 種坂 隆志 主任 野中登貴男 主任 赤瀬 裕子 栗村 法往 新谷 弘子 中辻ときみ 北山恵美子 小谷 泰生 中西 隆也 以上 H. 22. 6. 1付 東野 隆 前野 隆 赤羽 稔 以上 H. 22. 6. 1付
依願退職者	法人事務部長 長谷山則夫 大学事務部長 亀井 崇 課長 赤羽 稔 看護師 谷村 千春	附属病院	看護師 西村美由紀

ODU NEWS No.158

附属病院	H. 22. 4. 13付 看護師 谷村 千春	補綴咬合治療科(有歯) 中島 俊輝 , 藤野 寛暁
附属病院	H. 22. 6. 17付 看護師 濱田 光美	藤林 学 , 芳田 優子 大河 広伸 , 田中 雅章
	H. 22. 6. 30付	九良賀野愛 , 斎藤 友佑
委 嘴		芝 浩之 , 上野亜希子
名譽客員教授	玉置 敏夫	記村 優 , 羽原 貴恵
客員教授	山下 敦 , 末瀬 一彦	松田彩起子 , 溝畑 和恵
	熊崎 譲 , 二階 宏昌	小川裕美子 , 伊藤公美子
	北條 博一 , 螺良 愛郎	神吉 秀典 , 松島 由紀
	有田清三郎	平松 邦之 , 室井 悠里
Visiting Professor	David R. Avery	嶋田 景介 , 砂田 典子
	Chitta Ranjan Choudhury	本橋 具和 , 森 悠衣
	金 岩 , 朴 榮 國	胡内 孝美 , 柳川 恵
	申 濟元 , 金 麗甲	中道佳菜代 , 永井 裕子
	飯塚 建行 , Mark McGurk	稗田 彩人 , 深瀬 亜希
	以上 H. 22. 4. 1付	大口 直輝 , 角倉 豪
嘱託 カウンセラー (精神科医)	森 悅子	小児歯科・障害者歯科 西村 貴子 国本 純子
嘱託 臨床心理士	畠 聰美	歯科麻酔科 布谷 陽子 , 箕本 陽子
嘱託 医師	林 謙治 , 梅垣 裕	平田 裕也
	奥田 隆彦 , 西村 哲哉	臨床研修教育科 中島有佳子 , 松田 智子
	螺良 愛郎	総合診療・診断科 山本 具美 , 中井 智加
嘱託 歯科医師	近森 信人	松枝 正樹
嘱託 外部委員		以上 H. 22. 4. 1付
臨床研修管理運営委員会		医療嘱託
	山口 邦男 , 田口 洋見	耳鼻咽喉科 松本 考司
	江原 雄二	眼科 長央由里子
治験委員会	植木 哲	以上 H. 22. 4. 1付
	以上 H. 22. 4. 1付	ポストドクトラルフェロー
嘱託 医師	八木 理絵	歯科麻酔科 大草 知佳 , 稲村 吉高
	H. 22. 5. 1付	以上 H. 22. 4. 1付
病院医員		リサーチ・アシスタント
保存修復科	夏木佐和子 , 姜 永寛	解剖学 江原 大輔
	鍼形 園恵	H. 22. 5. 1付
歯内治療科	会坂 尚美 , 畠 容子	歯科矯正学 箕浦 沙恵
	藤代 雅也 , 山本 知里	H. 22. 6. 1付
歯周治療科	朝井 啓太 , 浦川久美子	総務部委員会委員長 小正 裕
	辻 有香 , 戸尾 江美	総務部委員会委員 豊田 紘一 , 田中 昭男
	橋上 芙美 , 栗本 武道	諏訪 文彦 , 覚道 健治
高齢者歯科	田伏 祐子 , 藤田 和己	大浦 清 , 西川 泰央
	藤田 貴士 , 奥田麻由子	上田 雅俊 , 中村 廣志
	藤田 崇夫 , 福岡 拓郎	長谷山則夫 , 亀井 崇
		松村 誠一 , 高須 聰

吉村 里美 以上 H. 22. 4. 1付	田中 昌博 以上 H. 22. 4. 1付
廃棄物処理委員会委員長 廃棄物処理委員会委員	小正 裕 覚道 健治, 池尾 隆 西川 泰央, 上田 雅俊 長谷山則夫, 亀井 崇 松村 誠一, 大上 登 以上 H. 22. 4. 1付
図書館運営委員会委員長 図書館運営委員会委員	神原 正樹 西川 泰央, 武田 昭二 小谷順一郎, 林 宏行 佐ノ木幸夫 以上 H. 22. 4. 1付
図書資料選択委員会委員長 図書資料選択委員会委員	神原 正樹 上村 守, 中塚美智子 内橋 賢二, 田村 功 益野 一哉, 南部 隆之 大谷 政博, 秋山 真理 土居 貴士, 谷本 啓彰 辻 則正, 田口洋一郎 井上 太郎, 藤井 孝政 吉峰 苑樹, 田伏 信 後藤 基宏, 蓮舎 寛樹 大東 希好, 板垣 恵輔 讃岐 拓郎, 宮前 雅見 久保 伸夫, 米谷 裕之 菊池 優子, 新井 是宣 岸本 直子, 一宮 正義 津田 進, 岡村 英幸 以上 H. 22. 4. 1付
健康管理委員会委員長 健康管理委員会委員	堂前 尚親 覚道 健治, 諏訪 文彦 神原 正樹, 福島 久典 清水谷公成, 林 宏行 長谷山則夫, 亀井 崇 東野 隆, 高須 聰 西堤 京子 以上 H. 22. 4. 1付
学生部委員会委員長 学生部委員会委員	諏訪 文彦 豊田 紘一, 林 宏行 岩井 康智, 池尾 隆 小谷順一郎, 上田 雅俊
	学内食堂管理運営委員会委員長 学内食堂管理運営委員会委員 覚道 健治, 大東 道治 岩井 康智, 山中 武志 三宅 達郎, 大久保 直 中村 廣志, 長谷山則夫 亀井 崇, 東野 隆 松村 誠一, 西堤 京子 東 真一郎 以上 H. 22. 4. 1付
	教育情報センター管理運営委員会委員長 福島 久典 教育情報センター管理運営委員会委員 池尾 隆, 清水谷公成 山本 一世, 藤原 真一 田中 昌博, 戸田 伊紀 今井 弘一, 川崎 弘二 吉田 匠宏, 堀井 活子 藤田 淳一, 南部 隆之 高橋 和代, 松村 誠一 東 真一郎, 西本 敏彦 三木 慶一 以上 H. 22. 4. 1付
	国際交流部委員会委員長 国際交流部委員会委員 佐ノ木幸夫, 川合進二郎 西川 泰央, 山本 一世 岡崎 定司, 方 一如 以上 H. 22. 4. 1付
	学術研究奨励助成金交付審査委員会 兼共同研究助成審査委員会委員長 田中 昭男 学術研究奨励助成金交付審査委員会 兼共同研究助成審査委員会委員 大浦 清, 西川 泰央 小正 裕, 森田 章介 以上 H. 22. 4. 1付
	カリキュラム委員会委員長 カリキュラム委員会委員 豊田 紘一, 藤原 真一 武田 昭二, 西川 泰央 山本 一世, 岡崎 定司

ODU NEWS No.158

松本 尚之 , 清水谷公成
小正 裕 , 川合進二郎
池尾 隆 , 林 宏行
以上 H. 22. 4. 1付

共用歯学O S C E 実行委員会委員長 山本 一世
共用歯学O S C E 実行委員会委員
西川 哲成 , 合田 征司
吉川 一志 , 馬場 忠彦
緒方智壽子 , 高橋 一也
柏木 宏介 , 西崎 宏
井関 富雄 , 中嶋 正博
大西 祐一 , 永木恵美子
古跡 孝和 , 園本 美惠
百田 義弘 , 米谷 裕之
前田 照太
以上 H. 22. 4. 1付

共用歯学C B T 委員会委員長 西川 泰央
共用歯学C B T 委員会委員
樫 則章 , 豊田 紘一
藤原 真一 , 檜枝 洋記
戸田 伊紀 , 合田 征司
山中 武志 , 篠原 光子
河野 智生 , 小野 圭昭
更谷 啓治 , 吉峰 茂樹
松本 和浩 , 大西 祐一
板垣 恵輔 , 大東 希好
杉岡 伸悟 , 中塚美智子
井上 博 , 富永 和也
今井 弘一 , 三宅 達郎
吉川 一志 , 吉田 匠宏
永田 雄己 , 大久保 直
王 宝禮
以上 H. 22. 4. 1付

プラッショアップ委員会委員長 林 宏行
プラッショアップ委員会委員
戸田 伊紀 , 上田 甲寅
内橋 賢二 , 田村 功
富永 和也 , 山中 武志
篠原 光子 , 今井 弘一
三宅 達郎 , 吉川 一志
馬場 忠彦 , 高津 兆雄
柿本 和俊 , 更谷 啓治

前田 照太 , 松本 和浩
窪 寛仁 , 永田 雄己
板垣 恵輔 , 竹安 正治
杉岡 伸悟 , 大久保 直
樫 則章 , 辻林 徹
牧田 佳真 , 岡村 英幸
以上 H. 22. 4. 1付

F D 委員会委員長 森田 章介
F D 委員会委員
公開講座委員会委員長 佐ノ木幸夫
公開講座委員会委員
医の倫理委員会委員長 覚道 健治
医の倫理委員会委員
組換えD N A 実験安全委員会委員長 川合進二郎
組換えD N A 実験安全委員会委員
西川 泰央 , 山中 武志
大久保 直 , 樫 則章
亀井 崇
以上 H. 22. 4. 1付

動物実験委員会委員長 池尾 隆
動物実験委員会委員
セクシュアル・ハラスメント防止委員会委員長 川添 堯彬
セクシュアル・ハラスメント防止委員会委員
小正 裕 , 覚道 健治
諫訪 文彦 , 中村 廣志

亀井 崇, 高須 聰
西堤 京子
以上 H. 22. 4. 1付

サイバーキャンパス審議委員会委員長
豊田 紘一

サイバーキャンパス審議委員会委員
小正 裕, 神原 正樹
林 宏行, 大浦 清
福島 久典, 山本 一世
池尾 隆, 亀井 崇
東野 隆, 松村 誠一
安藤 孝幸, 高須 聰
西堤 京子, 高橋 和代
三木 慶一
以上 H. 22. 4. 1付

ホームページ委員会委員長
豊田 紘一

ホームページ委員会委員 小正 裕, 神原 正樹
林 宏行, 大浦 清
福島 久典, 山本 一世
池尾 隆, 亀井 崇
東野 隆, 松村 誠一
安藤 孝幸, 高須 聰
西堤 京子, 高橋 和代
三木 慶一
以上 H. 22. 4. 1付

知的財産委員会委員長
覚道 健治

知的財産委員会委員 田中 昭男, 諏訪 文彦
小正 裕, 亀井 崇
池田 良則
以上 H. 22. 4. 1付

教員評価委員会委員長
川添 堯彬

教員評価委員会委員 豊田 紘一, 神原 正樹
小正 裕, 田中 昭男
覚道 健治, 諏訪 文彦
以上 H. 22. 4. 1付

大学院委員会委員長
大浦 清

大学院委員会委員 田中 昭男, 諏訪 文彦
西川 泰央, 森田 章介
小谷順一郎, 山本 一世
岡崎 定司
以上 H. 22. 4. 1付

中央歯学研究所委員会委員長
西川 泰央

中央歯学研究所委員会委員
池尾 隆, 武田 昭二
田中 昌博, 山中 武志
隈部 俊二, 内橋 賢二
合田 征司, 土居 貴士
橋本 典也, 亀井 崇
池田 良則, 堀 英明
以上 H. 22. 4. 1付

ネットワーク小委員会委員長
藤原 真一

ネットワーク小委員会委員
辻林 徹, 今井 弘一
四井 資隆, 上村 守
竹内 摂, 居波 薫
南部 隆之, 三木 慶一
野中登貴男, 出水 浩一
以上 H. 22. 4. 1付

人事委員会委員長
三谷 卓

人事委員会委員
下村錢三郎, 田中 昭男
諏訪 文彦, 覚道 健治
小正 裕, 藤野 明
伊達 洋彦, 末瀬 一彦
中村 廣志, 長谷山則夫
亀井 崇, 東野 隆
高須 聰
以上 H. 22. 4. 1付

人事委員会委員
前野 隆
H. 22. 6. 1付

財務企画委員会委員長
川添 堯彬

財務企画委員会委員
下村錢三郎, 田中 昭男
三谷 卓, 藤野 明
諏訪 文彦, 覚道 健治
伊達 洋彦, 豊田 紘一
小正 裕, 末瀬 一彦
中村 廣志, 長谷山則夫
中尾 昌彦, 亀井 崇
松村 誠一
以上 H. 22. 4. 1付

財務企画委員会
病院の運営に関する事項部会部会長
覚道 健治

病院の運営に関する事項部会部会員
下村錢三郎, 三谷 卓
藤野 明, 伊達 洋彦

ODU NEWS No.158

上田 雅俊 ,森田 章介
林 宏行 ,前野 隆
赤羽 稔 ,森田 恒生
今道 裕之 ,東 真一郎

財務企画委員会
牧野学舎将来計画作業部会部会長 下村錢三郎
牧野学舎将来計画作業部会部会員
田中 昭男 ,覚道 健治
豊田 紘一 ,神原 正樹
小正 裕 ,堂前 尚親
末瀬 一彦 ,長家 秀博
中村 廣志 ,長谷山則夫
松村 誠一

財務企画委員会
給与部会部会長 三谷 卓
給与部会部会員 小正 裕 ,大浦 清
中村 廣志 ,長谷山則夫
中尾 昌彦 ,亀井 崇
松村 誠一 ,高須 聰

財務企画委員会
経営部会部会長 下村錢三郎
経営部会部会員 田中 昭男 ,三谷 卓
岡 邦恭 ,橋本 猛伸
諏訪 文彦 ,覚道 健治
伊達 洋彦 ,豊田 紘一
神原 正樹 ,末瀬 一彦
中村 廣志 ,長谷山則夫
中尾 昌彦 ,亀井 崇
松村 誠一
以上 H. 22. 6. 1付

退職資金管理運営委員会委員長 三谷 卓
退職資金管理運営委員会委員
田中 昭男 ,下村錢三郎
覚道 健治 ,小正 裕
中村 廣志 ,亀井 崇
以上 H. 22. 6. 1付

業者登録選考委員会委員長 下村錢三郎
業者登録選考委員会委員 三谷 卓 ,田中 昭男
伊達 洋彦 ,藤野 明
末瀬 一彦 ,中村 廣志
長谷山則夫 ,亀井 崇
前野 隆 ,松村 誠一

大上 登 ,田中 修
以上 H. 22. 6. 1付
学術研究奨励基金管理運営委員会委員長
下村錢三郎
学術研究奨励基金管理運営委員会委員
田中 昭男 ,諏訪 文彦
藤野 明
以上 H. 22. 6. 1付
環境管理委員会委員長 覚道 健治
環境管理委員会委員 藤野 明 ,豊田 紘一
小谷順一郎 ,末瀬 一彦
中村 廣志 ,長谷山則夫
亀井 崇 ,前野 隆
松村 誠一
以上 H. 22. 6. 1付

枚方資料センター管理運営委員会委員長
覚道 健治
枚方資料センター管理運営委員会委員
下村錢三郎 ,藤野 明
豊田 紘一 ,大浦 清
末瀬 一彦 ,中村 廣志
長谷山則夫 ,亀井 崇
前野 隆 ,池田 良則
松村 誠一
以上 H. 22. 6. 1付

予算委員会委員長 下村錢三郎
予算委員会委員 川添 堯彬 ,田中 昭男
諏訪 文彦 ,覚道 健治
藤野 明 ,伊達 洋彦
豊田 紘一 ,神原 正樹
小正 裕 ,大浦 清
福島 久典 ,西川 泰央
中村 廣志 ,長谷山則夫
前野 隆 ,亀井 崇
中尾 昌彦
以上 H. 22. 6. 1付

自己点検運営委員会委員長 川添 堯彬
自己点検運営委員会委員 田中 昭男 ,諏訪 文彦
覚道 健治 ,神原 正樹
大浦 清 ,末瀬 一彦
亀井 崇 ,前野 隆
以上 H. 22. 6. 1付

自己点検実施委員会委員長	川添 勇彬	小正 裕, 西川 泰央
自己点検実施委員会		篠原 光子, 辻 一起子
法人部門委員	田中 昭男, 諏訪 文彦	中村 廣志, 長谷山則夫
	中村 廣志, 長谷山則夫	亀井 崇, 前野 隆
	松村 誠一	高須 聰, 西堤 京子
自己点検実施委員会		東 真一郎, 松村 誠一
教育・研究部門委員	田中 昭男, 諏訪 文彦	以上 H. 22. 6. 1付
	豊田 紘一, 大浦 清	
	西川 泰央, 牧谷 弘幸	個人情報保護委員会委員長 川添 勇彬
	西堤 京子	個人情報保護委員会委員 田中 昭男, 諏訪 文彦
自己点検実施委員会		覚道 健治, 豊田 紘一
病院部門委員	覚道 健治, 上田 雅俊	小正 裕, 神原 正樹
	森田 章介, 林 宏行	大浦 清, 福島 久典
	東 真一郎	末瀬 一彦, 横 則章
自己点検実施委員会		中村 廣志, 長谷山則夫
事務部門委員	亀井 崇, 安藤 孝幸	亀井 崇, 前野 隆
	牧谷 弘幸, 高須 聰	三木 廉一
自己点検実施委員会		個人情報保護委員会大学部門委員会委員長 豊田 紘一
編集委員	田中 昭男, 諏訪 文彦	個人情報保護委員会大学部門委員会委員 田中 昭男, 諏訪 文彦
	豊田 紘一, 西川 泰央	神原 正樹, 福島 久典
	亀井 崇, 安藤 孝幸	末瀬 一彦, 横 則章
	牧谷 弘幸, 松村 誠一	三木 廉一, 牧谷 弘幸
	以上 H. 22. 6. 1付	西堤 京子
ODU ウエルネス・ホール管理運営委員会委員長	小正 裕	個人情報保護委員会病院部門委員会委員長 覚道 健治
ODU ウエルネス・ホール管理運営委員会委員	諏訪 文彦, 上田 雅俊	個人情報保護委員会病院部門委員会委員 上田 雅俊, 森田 章介
	覚道 健治, 大浦 清	林 宏行, 嘉藤 幹夫
	堂前 尚親, 福島 久典	佐久間泰司, 前野 隆
	末瀬 一彦, 長家 秀博	森田 恒生, 今道 裕之
	中村 廣志, 長谷山則夫	東 真一郎
	亀井 崇, 前野 隆	個人情報保護委員会事務部門委員会委員長 亀井 崇
	高須 聰, 西堤 京子	個人情報保護委員会事務部門委員会委員 中村 廣志, 長谷山則夫
	東 真一郎	前野 隆, 中尾 昌彦
	以上 H. 22. 6. 1付	池田 良則, 三木 廉一
広報委員会委員長	川添 勇彬	牧谷 弘幸, 松村 誠一
広報委員会委員	安藤 孝幸, 松村 誠一	高須 聰, 東 真一郎
	以上 H. 22. 6. 1付	以上 H. 22. 6. 1付
人権啓発推進委員会委員長	川添 勇彬	専門学校財政改善等検討委員会委員長 三谷 卓
人権啓発推進委員会委員	下村錢三郎, 田中 昭男	
	三谷 卓, 藤野 明	
	諏訪 文彦, 覚道 健治	

ODU NEWS No.158

専門学校財政改善等検討委員会委員

下村 錢三郎, 田中 昭男
 藤野 明, 諏訪 文彦
 覚道 健治, 末瀬 一彦
 中村 廣志, 長谷山則夫
 亀井 崇, 松村 誠一
 以上 H. 22. 6. 1付

大阪歯科大学附属病院財務改善検討委員会委員長
下村 錢三郎

大阪歯科大学附属病院財務改善検討委員会委員
田中 昭男, 三谷 卓
 覚道 健治, 藤野 明
 伊達 洋彦, 末瀬 一彦
 亀井 崇, 前野 隆
 以上 H. 22. 6. 1付

資産運用検討委員会委員長 伊達 洋彦
 資産運用検討委員会委員 下村 錢三郎, 田中 昭男
 三谷 卓, 覚道 健治
 藤野 明, 中村 廣志
 長谷山則夫, 亀井 崇
 中尾 昌彦, 稲留 誠
 以上 H. 22. 6. 1付

学校法人大阪歯科大学利益相反検討委員会委員長
覚道 健治
 学校法人大阪歯科大学利益相反検討委員会委員
田中 昭男, 小正 裕
 横 則章, 亀井 崇
 池田 良則
 以上 H. 22. 6. 1付

専門学校の大学・短大化に関する検討委員会委員長
三谷 卓

専門学校の大学・短大化に関する検討委員会委員
下村 錢三郎, 田中 昭男
 諏訪 文彦, 覚道 健治
 藤野 明, 末瀬 一彦
 田中 照代, 中村 廣志
 長谷山則夫, 亀井 崇
 東野 隆
 以上 H. 22. 6. 24付

大阪歯科大学創立 100 周年記念事業

常任委員会副委員長 下村 錢三郎, 田中 昭男
 諏訪 文彦

常任委員会常任委員 藤野 明, 古川 壽男
 前田 眞治, 西川 泰央
 清水谷公成, 長谷山則夫
 亀井 崇, 中尾 昌彦
 以上 H. 22. 6. 24付

大阪歯科大学創立 100 周年記念事業準備グループ
《記念式典・祝宴・慰靈祭》

リーダー（責任者）	覚道 健治
メンバー（委員）	藤野 明
	前田 真治
	諏訪 文彦
事務局（事務担当）	亀井 崇
	前野 隆

《本学発祥の地・記念碑設置》

リーダー（責任者）	下村 錢三郎
メンバー（委員）	古川 壽男
事務局（事務担当）	長谷山則夫

《記念事業募金》

リーダー（責任者）	川添 勇彬
メンバー（委員）	三谷 卓
	上田 雅俊

事務局（事務担当）	稻留 誠
-----------	------

《公開講座・講演会》

メンバー（委員）	藤野 明
事務局（事務担当）	亀井 崇

《講義室・自習室建設》

事務局（事務担当）	長谷山則夫
-----------	-------

《大学 100 年史・大学院 50 年史》

事務局（事務担当）	西堤 京子
	池田 良則
	高橋 和代

《歯科医学の歴史的資料（史料）収集》

リーダー（責任者）	覚道 健治
メンバー（委員）	北條 博一
	玉置 敏夫
	小谷順一郎

	前田 照太
	江藤 隆徳
	小出 武

事務局（事務担当）	亀井 崇
	池田 良則

	牧谷 弘幸 東 真一郎 以上 H. 22. 6. 24付	補綴系責任者 口腔外科系責任者 単独型プログラム責任者 単独型副プログラム責任者 複合型プログラム責任者 複合型副プログラム責任者	岡崎 定司 森田 章介 前田 照太 紺井 拡隆 山本 一世 松本 尚之, 岩田 有弘 畠 銀一郎, 河野 智生 高橋 一也, 楠本 哲次 西崎 宏, 井関 富雄 中嶋 正博, 古跡 孝和 嘉藤 幹夫, 百田 義弘 井上 雅裕, 米田 護 指導歯科医 (単独型) 小川 文也, 大井 治正 北野 忠則, 菊池 優子 岩田 有弘, 吉川 一志 畠 銀一郎, 至田 宗泰 河野 智生, 高津 兆雄 柿本 和俊, 伊崎 克弥 楠本 哲次, 佐藤 正樹 西崎 宏, 川野 晃 井関 富雄, 中嶋 正博 古跡 孝和, 嘉藤 幹夫 百田 義弘, 井上 雅裕 米田 護, 米谷 裕之 指導歯科医 (複合型) 吉川 一志, 谷本 啓彰 初岡 昌憲, 鈴木康一郎 西田 尚敬, 竹内 摂 至田 宗泰, 西川 郁夫 池永 英彰, 稲本 雄之 緒方智壽子, 高津 兆雄 柿本 和俊, 伊崎 克弥 樋口 裕一, 小野 圭昭 井上 太郎, 川本 章代 田中 栄士, 更谷 啓治 柏木 宏介, 佐藤 正樹 鳥井 克典, 田中 昌博 土佐 淳一, 田中 順子 藤井 孝政, 兼平 治和 川野 晃, 吉峰 茂樹 吳本 晃一, 山本さつき 奥田 恵司, 土居 聖
第一学年 学年指導教授	藤原 真一		
助言教員	上田 甲寅, 藤田 淳一		
	上村 守, 岡村 英幸		
	田村 功, 一宮 正義		
第二学年 学年指導教授	武田 昭二		
助言教員	中塚美智子, 野田 知宣		
	戸田 伊紀, 長家 秀博		
	内橋 賢二, 横 則章		
第三学年 学年指導教授	西川 泰央		
助言教員	大島 浩, 富永 和也		
	山根 一芳, 土居 貴士		
	戸田 雅裕, 合田 征司		
第四学年 学年指導教授	山本 一世		
助言教員	川崎 弘二, 井上 博		
	今井 弘一, 山中 武志		
	篠原 光子, 和唐 雅博		
第五学年 学年指導教授	岡崎 定司		
助言教員	飯田 拓二, 吉川 一志		
	吉田 匡宏, 竹安 正治		
	古跡 孝和, 加藤 裕彦		
第六学年 学年指導教授	松本 尚之		
副学年指導教授	清水谷公成, 小正 裕		
助言教員	柏木 宏介, 高橋 一也		
	吉田 博昭, 大西 祐一		
	高津 兆雄, 兼平 治和		
	以上 H. 22. 4. 1付		
第一、第二学年教育アドバイザー	藤原 真一		
第三、第四学年教育アドバイザー	王 宝禮		
第五、第六学年教育アドバイザー	有田清三郎		
	以上 H. 22. 4. 14付		
学友会会长	上田 雅俊		
	H. 22. 4. 1付		
大阪歯科大学附属病院歯科医師臨床研修プログラム 総括責任者	覚道 健治		
副総括責任者	上田 雅俊, 森田 章介		
	林 宏行		
院内研修担当者部会長	松本 尚之		
院外研修担当者部会長	小出 武		
保存系責任者	上田 雅俊		

ODU NEWS No.158

	田伏 信 , 吉田 博昭 松本 和浩 , 佐野 寿哉 福田 あおい , 岩井 理恵 大西 祐一 , 堀井 活子 窪 寛仁 , 後藤 基宏 正重 裕一 , 蝶庭 秀也 飯田 拓二 , 西浦 亜紀 蓮舎 寛樹 , 永木恵美子 板垣 恵輔 , 四井 資隆 蒲生 祥子 , 園本 美惠 大東 希好 , 人見さよ子 竹安 正治 , 佐久間泰司 杉岡 伸悟 , 加藤 裕彦 讃岐 拓郎 , 江藤 隆徳 山田 裕 , 金平裕久美 新井 是宣 , 永目 誠吾 松本 晃一 , 樋口 恒子 米谷 裕之 , 辻 一起子 辰巳 浩隆 , 三ヶ山茂樹 大西 明雄 以上 H. 22. 4. 1付	高井 規安 , 稲田 條治 陣内皓之祐 , 小山 なつ 吉村 佳博 , 岩崎 精彦 宮尾 治樹 , 村上 浩孝 岩住 征紀 , 森 明彦 久保 研 , 大塚 俊裕 田中 一弘 塙路伊佐子 , 湧本 昇 長澤 成明 , 畑下 芳史 高石 佳知 , 小坂 広之 高屋 肖史 , 中川 雅夫 伊東 穎雄 , 倉阪 雅巳 有山金一郎 , 岩佐 勝也 田中 義人 , 天方 靖治 前田潤一郎 , 上野 真徳 逸崎 宏 , 田邊 薫 芦田 欣一 , 善 瞳彦 奥野 夏樹 , 前田満里子 新谷 牧 , 岡村 敬次 松井 正剛 , 川口 佳夫 武田 良一 , 東浦 宏守 和田 聖二 , 河原 康二 佐久間 黙 , 筒井 淳 西村 泰典 , 畑 慎太郎 井上 純一 , 小川 歆 伊藤 康夫 , 藤田 康一 水野 周二 , 山本 範子 吉竹 弘行 , 和手 甚京 松野 吉晃 , 亀井 真紀 多々見敏章 , 小幡 登 中沢 賢一 , 廣畑 要一 森 直樹 , 石原 研 水川 健司 , 西川 博之 石川 協 , 大草 修 森川 裕 , 岡本 卓士 九門 好彦 , 井上 博明 吉岡 三四 , 宮田 敏生 坂本 伸人 , 武内信二郎 高山 昭則 , 河野 元一 村川 昇 , 田地 陽一 狹川 正 , 林 昭典 野阪ひとみ , 日高 厚
講師(非常勤)委嘱		
解剖学講座	清水 孝治 , 蔵前 勝彦 疋田 芳寛 , 島田 純治 中村 雅彦 , 江原 雄二 大塚 拓三 , 中道 哲 北村清一郎 , 牧草 一人 三宅 晴記 , 藤原 成樹 松川 信夫 , 武田 安弘 中辻 勇志 , 池 宏海 田中 育彦 , 大野久美子	細菌学講座
口腔解剖学講座	阪本 義之 , 鄭 在泳 橋爪 年世 , 菊池 史郎 多田 逸 , 萩田 雄紀 山本 洋幸 , 松田 哲一 椿井 孝芳 , 朱 成淑 Rogelio Vilchis , 藤原 士郎 藤本 嘉治 , 富永 康彦 脇坂 聰	薬理学講座
生理学講座	山本 修治 , 芳本 忍 榎村 光仁 , 長谷川彰則	

歯科理工学講座	岩本 一哉	光山 誠 , 松田 正文
	川原 大 , 五老海輝一	實重 英仁 , 福永 剛士
口腔衛生学講座	片岡 喜平 , 三浦 康伸	神田 順子 , 丹田 博巳
	森口 泰成 , 上田 明博	高齢者歯科学講座
歯科保存学講座	観 晋平	亀水 忠茂 , 宮 博文
	奥 忠之 , 白石 雅照	山田 昭治 , 浅井 加雄
口腔治療学講座	今井 意晴 , 野村 一夫	松尾 光至 , 大槻 榮人
	尾辻 淳 , 藤井 由希	田中 球生 , 原 佳代子
歯周病学講座	中川 哲也 , 森野与史緒	右遠 英悟 , 須田 和門
	熊崎 真義 , 村田 省三	芦田 貴司 , 北山 展弘
口腔外科学第一講座	井上 富夫 , 小林 正憲	浅井 崇嗣 , 井上 愛
	岡村 伸江 , 奥村 信	上田 章浩 , 氷見 彰敏
歯周病学講座	日吉 紀子 , 伊津 元博	村岡 正規 , 藤岡宗之輔
	平塚 靖規 , 生内 信男	西岡 良子 , 亀水 忠宗
口腔外科学第二講座	高島隆太郎 , 西川 学	辻 功 , 太田 邦雄
	福井 敬和 , 小山内 惺	佐川 寛一 , 河野 亘
歯周病学講座	井上 昌孝 , 谷 哲	水井 雅則 , 馬場 俊輔
	南 昌宏 , 藤原 秀樹	柳田 昌宏 , 長砂 孝
歯周病学講座	三木 秀治 , 河村 昌哲	徳永 徹 , 仲西 健樹
	藤田 昌弘 , 吉原 正晃	田中 誠也 , 今井 敦子
歯周病学講座	妻野 純朗 , 廣瀬 泰明	上田 直克 , 佐古 好正
	砂田 和久 , 宮地 秀彦	木村 公一 , 朴 康鉄
歯周病学講座	諏訪沙耶佳 , 林原 久盛	加藤 信次 , 田 和也
	岩本 圭司 , 白石 充	岡田 正傳 , 奥田 昌義
歯周病学講座	大前 正範	三谷 徹 , 吉峰美千代
	塙見 聰 , 奥野 一吉	奥田 啓之 , 藤原 到
歯周病学講座	細見 環 , 速水 茂	恩地 良幸 , 池田 直也
	巖 恭輔 , 上村 学	西川 敏文 , 吉川 洋史
歯周病学講座	寺田 行男 , 金村 成智	岡本 吉宏 , 島谷 肇
	河津 正文 , 山田 健藏	上り口晃成 , 小林 将之
歯周病学講座	薄 孝 , 逸見 浩史	村松 豪太 , 田村 佳則
	木村 喜彦 , 上田 佳世	江藤 隆仁
歯周病学講座	辻 一郎 , 吉川 伸	連 利隆 , 島 盛隆
	堀 宏之 , 松田 孝之	大石 建三 , 大杉 泰敏
歯周病学講座	川村 和仁 , 下村 容規	栗林 信仁 , 佐々木 昇
	橋本 光示 , 本城 範典	酒匂 潤 , 小渕 匠清
歯周病学講座	畠山 善行 , 神田 浩	植野 茂 , 井上 明洋
	大塚 健司 , 林 正純	杉本 圭介 , 卍 勝人
歯周病学講座	西川 義公 , 英保 武志	黒田 卓 , 篠田 豊
	寺西 義浩 , 岡西 裕公	木下 智 , 松本 康宏
歯周病学講座	釜谷 晋平 , 白井 健雄	辻 要 , 小川裕美子
	南林 繁良 , 中垣 直毅	松島 由紀
歯周病学講座		仁木 寛 , 有家 巧

ODU NEWS No.158

歯科矯正学講座	・熊 雅彦 , 赤根 昌樹 杉立 光史 , 柚木 大和 郷 真奈武 , 林 秀一 岩本守市良 , 鹿野 学 山崎 行庸 , 岩崎 春美 栗田 賢一 , 森下 寛史 田村 浩伸 , 濱本 和彦 阪本 貴司 , 本橋 具和 大浦 寿哉 , 犬伏 俊嗣 笹岡 邦夫 , 中川 学 金 漢俊 , 高橋 啓 山田 尋士 , 大塚 重雄 金 錫俊 , 関 詔夫 壺内 建行 , 長屋 和也 岡林 聰 , 速水 勇人 本田 領 , 山本 昌宏 岡下慎太郎 , 玉田 亨 荒垣 劳元 , 太田千佳子 今井 一彦 , 内海 潔 江原 昌弘 , 山崎 章 川植 康史 , 室井 誠 松本 義之 , 釜田 博史 藤谷 富男 , 川崎 靖典 坂本 健吾 , 林 靖久 池本 博之 , 石井 信行 大道 士郎 , 大谷 敬三 梶本祐一郎 , 嘉ノ海龍三 佐伯 克彦 , 白數 慎也 高松 恒美 , 大東 美穂 中村 弘之 , 濱田 義彦 原 直仁 , 保澤 静 松尾 博之 , 三戸 應則 三村 雅一 , 山尾 雅朗 渡邊 景子 , 渡邊 記代 赤塚 正文 , 山下 智章 中村 久美 , 藤 喜久雄 足立 了平 , 河合 峰雄 金銅 英二 , 水野 誠 姜 由紀 , 釜田 隆 安留 輝之 , 松田 佳子 孫 弘樹 , 弘兼 素子 安東 大器 , 大草 知佳	内科学講座 耳鼻咽喉科学講座 一般教育科目 講座所属外 兼任者 大学院歯学研究科	稻村 吉高 熊谷 俊一 , 根住 直史 濱中大三郎 , 岡崎 俊朗 梅原 久範 , 米田 修 薬師寺健太郎 , 奥田 恵子 宮地 理彦 , 原川 奈梨 金下 祐己 鎌田 守人 小島 伸豊 石黒 義昭 石黒 義昭 永石 高敏 平 英美 平田 和彦 , 片岡 宏仁 平田 和彦 , 片岡 宏仁 Oliver Kinghorn LEVESQUE Pierre 武田 良材 , 大森 智子 山田 陽一 福森俊一郎 , 野村 孝久 福田 厚治 , 山田なおみ 出井 章雅 稻本 俊 , 山城 大泰 平野 哲郎 吉本 寛司 住本 真一 山崎 文和 , 大江 秀一 上野 千穂 岸本 直子 江藤 隆徳 , 井上 雅裕 末瀬 一彦 小出 武 , 松本 晃一 永目 誠吾 , 米谷 裕之 辻 一起子 , 辰巳 浩隆 三ヶ山茂樹 , 米田 譲 大西 明雄 , 樋口 恭子 以上 H. 22. 4. 1付 清水 孝治 , 牧草 一人
	内科学講座		
	耳鼻咽喉科学講座		
	一般教育科目		
	講座所属外		
	兼任者		
	大学院歯学研究科		

口腔解剖学 朱 成淑, 脇坂 聰
病理学 魚部 健市, 山根木康嗣
細菌学 木村 彩子, 岡村 友玄
古川 智代, 石田 哲也
西村 耕一, 本山 浩司
加藤 秀治
薬理学 中川 秀幸
口腔衛生学 米満 正美, 安藤 昌俊
高島 怜子
歯周病学 小池 敏克, 富井裕紀子
寺田昌一郎, 上田 実果
高齢者歯科学 岩山 和史, 上杉 直斗
坂井 大吾
有歯補綴咬合学 龍田 光弘, 鷹尾 智典
疋田 陽造, 鶴身 曜子
欠損歯列補綴咬合学 加藤 尚, 松野 彰仁
伊藤 秀高
口腔外科学(第一) 志水 秀郎, 北郷 明成
紙谷 仁之, 中川 誠仁
松田彩起子
口腔外科学(第二) 松本 俊郎, 中田 研
室井 悠里, 山本 浩貴
小児歯科学 佐野 祥子, 濱田吉之輔
原田 竜, 堀田 博史
歯科麻酔学 徳永 敦, 金田 一弘
内科学 藥師寺健太郎, 金下 祐己
以上 H. 22. 4. 1付

歯科技工士専門学校講師(非常勤)

長家 秀博, 山田なおみ, 佐ノ木幸夫
藤田 淳一, 武田 昭二, 大島 浩
橋本 典也, 都賀谷紀宏, 諏訪 文彦
竹村 明道, 戸田 伊紀, 玉田 善堂
岩井 康智, 限部 俊二, 中塚美智子
豊田 紘一, 飯田 慈子, 藤原 真一
川合進二郎, 横 則章, 西川 泰央
池尾 隆, 田中 昭男, 福島 久典
神原 正樹, 田中 昌博, 楠本 哲次
柏木 宏介, 佐藤 正樹, 江藤 隆徳
佐藤 琢也, 前田 照太, 吉峰 茂樹
吳本 晃一, 小正 裕, 橋口 裕一
松本 尚之, 飯田 拓二, 大東 道治
嘉藤 幹夫, 竹安 正治, 山本 一世

鈴木康一郎, 清水谷公成, 覚道 健治
森田 章介, 小谷順一郎, 本多 正明
山下 恒彦, 方 一如, 高橋 恵美
河村 龍三, 内木 雄一, 加地 公夫
西村 謙, 篠崎 照泰, 木本 吉昭
佐藤 繁男, 永井 利明, 菊田 茂
小山 和美, 吐山 寛, 宮川 浩司
齋藤 俊文, 堀内 賢, 武森 政文
中辻 孝一, 木村 洋三, 西村 元彥
明崎 納, 林 美己, 東 宗秀
弓場 信三, 内藤 徹
以上 H. 22. 4. 1付

歯科衛生士専門学校講師(非常勤)

川合進二郎, 檜枝 洋記, 岡村 英幸
藤原 真一, 豊田 紘一, 飯田 慈子
樺 則章, 中前 純治, 石黒 義昭
谷 康平, 佐ノ木幸夫, 藤田 淳一
長家 秀博, 福田 厚治, 諏訪 文彦
竹村 明道, 戸田 伊紀, 上村 守
西川 泰央, 内橋 賢二, 池尾 隆
鎌田 愛子, 田村 功, 合田 征司
岩井 康智, 限部 俊二, 中塚美智子
田中 昭男, 西川 哲成, 福島 久典
山中 武志, 南部 隆之, 大浦 清
篠原 光子, 戸田 雅裕, 神原 正樹
三宅 達郎, 川崎 弘二, 土居 貴士
神 光一郎, 上根 昌子, 小谷順一郎
佐久間泰司, 中村 亜紀, 今西 秀明
福井 和枝, 入江 隆子, 福澤美智子
中塚美智子, 覚道 健治, 山本 一世
林 宏行, 馬場 忠彦, 辻 則正
上田 雅俊, 緒方智壽子, 小正 裕
柿本 和俊, 岡崎 定司, 奥田 恵司
森田 章介, 福田あおい, 大東 道治
嘉藤 幹夫, 竹安 正治, 松本 尚之
永木恵美子, 東山 朋代, 濱本 愛子
近森 信人, 小田見也子, 山下 政代
臼本 鏡子, 清水谷公成, 秋山 広徳
小出 武, 米谷 裕之, 辻 一起子
川原 幹夫, 武田 昭二, 大島 浩
糸田 昌隆, 方 一如, 宮本美千子
藤林由利安, 高田橋美幸, 南部 智子

ODU NEWS No.158

隅田 好美, 笠原 幸子, 森田婦美子
張木 康代, 木村 葵子, 森 悅子
江藤 隆徳, 井上 雅裕, 西田 百代
平尾 一幸, 前田留美子, 村田 圭美
以上 H. 22. 4. 1付



あとがき



—余談—

サッカーワールドカップの予選リーグが始まった頃は連日、深夜までテレビとお付き合いされた御仁も多かったのではないでしようか。日本代表は大方の予想を覆し予選を突破しましたが、決勝リーグ1回戦で敗れベスト16という結果となりました。大会前の世界ランキングでは日本は45位でしたので、大健闘といえます。何しろ、予選通過どころか1勝もできないといっていた解説者もいましたからね。大会前いいところなく3,4連敗していた影響もあるでしょうが。では、大会前後で日本代表は何か変わったのでしょうか。

技術面、精神面はさておき、組織力という点でアップしていたことは確かだと思います。何がきっかけとなったかわかりませんが、チームとしての戦い方についての共通理解を一人ひとり共有できていたように思われます。体格的、技術的に劣っていても、一人で対応するのではなく複数の人数で対抗することで未然にピンチを防ぎ、人数をかけたリスクは誰かが必ず戻ってカバーをする。攻守においてそういう連携のとれたプレーが随所に見られ、どの試合においても90分間破綻しなかったことが、勝敗を別にして1点を争う緊張感のある好ゲームを展開できた要因と思われます。戦い終わって、選手たちが異口同音に「このチームでもっと試合をしたい」旨のことを言っていたのが印象的です。試合をしていて充実感があったのでしょう。

一方、前回優勝と準優勝のイタリアとフランスがそろって予選で敗退しました。イタリアについては、司令塔と目されていた選手の故障欠場の影響が大きく、結局その穴を埋める救世主が現れないまま大会が終わってしまいました。フランスにいたっては1勝もできず開催地南アフリカを去りました。監督を含めチーム内のゴタゴタガを制御できずチームは組織として完全

に崩壊し、戦う前から自滅していました。これでは勝てるわけがありません。

サッカーは、比較的番狂わせが生じやすいスポーツといえます。試合内容や実力が必ずしも得点に結びつかないからで、通常のプレーとは違う次元に「ゴール」という得点が設定されているからです。80%試合を支配していても、1本のカウンターのロングキックから1本シュートで負けることがあります。いくら実力のあるチームであっても、試合において選手一人ひとりはそういう恐怖の中で戦っていると思います。したがってチーム内が意思統一されていないと、思わぬ破綻をきたします。イタリア、フランスを始め実力があるチームが早々と敗退していったのは、この大会での戦い方において、組織として統一性を欠いていたことが最大の要因であると思われます。

このことは、サッカーを始めとする団体スポーツに限らず、あらゆる社会集団についてもいえると思います。大企業、中小企業、学校あるいは官公庁であれ、その規模の大小、業種を問わず、集団・組織には必ず存在目的があります。存在目的とは、その集団が社会で果たす役割にほかなりません。逆に言えば、社会からの評価がなければ、その集団は存続していくことはできません。したがって、その存在目的が集団・組織の構成員にいかに共有され、理解されているかが存続の鍵であり、第一条件となります。存続の第二条件は、社会からの評価ということになります。企業であれば、自社の製品あるいはサービスが社会から評価されず、利益を上げることができなければ存続できません。学校や官公庁は、その点でそうした外部からのコントロールがあまり機能せず、本来の存在目的を忘れ自己目的化する危険性が高い集団といえます。情報開示などの社会要請は、その点を指摘しているといえます。

存続の第一条件と第二条件は表裏一体の関係にあります。コインには、必ず表（自己）と裏（他者＝社会）があることを忘れてはいけません。

大阪歯科大学広報 第158号

発行日 平成22年6月30日

編集発行 広報委員会

〒573-1121 枚方市楠葉花園町8-1

電話 072-864-3111